

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	青山学院大学
設置者名	学校法人 青山学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	英米文学科	夜・通信	14			14	13	
	フランス文学科	夜・通信				14	13	
	日本文学科	夜・通信				14	13	
	史学科	夜・通信				14	13	
	比較芸術学科	夜・通信				14	13	
教育人間科学部	教育学科	夜・通信	14			14	13	
	心理学科	夜・通信				14	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	14			14	13	
	現代経済デザイン学科	夜・通信				14	13	
法学部	法学科	夜・通信	14			14	13	
	ヒューマンライツ学科							
経営学部	経営学科	夜・通信	14			14	13	
	マーケティング学科	夜・通信				14	13	
国際政治経済学部	国際政治学科	夜・通信	14			14	13	
	国際経済学科	夜・通信				14	13	
	国際コミュニケーション学科	夜・通信				14	13	

総合文化政策学部	総合文化政策学科	夜・通信	14			14	13	
理工学部	物理科学科	夜・通信	14			14	13	
	数理サイエンス学科	夜・通信				14	13	
	化学・生命科学科	夜・通信				14	13	
	電気電子工学科	夜・通信				14	13	
	機械創造工学科	夜・通信				14	13	
	経営システム工学科	夜・通信				14	13	
	情報テクノロジー学科	夜・通信				14	13	
社会情報学部	社会情報学科	夜・通信	14			14	13	
地球社会共生学部	地球社会共生学科	夜・通信	14			14	13	
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学科	夜・通信	14			14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページにて公表。メニューにある「授業科目・授業内容」から「シラバス検索システム」より、青山スタンダード科目を選択し、「実務経験」のチェックボックスにチェックを入れて確認する。
<http://syllabus.aoyama.ac.jp/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	青山学院大学
設置者名	学校法人 青山学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ（以下）に掲載 https://www.aoyamagakuin.jp/introduction/data/post.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	現 弁護士	2022.10.29 ～2026.10.28	法務・教職員組合・ 内部監査
常勤	元 東芝ソシオシステムズ (株) 代表取締役社長	2022.7.1 ～2026.6.30	管財・広報
(備考) 理事 現員19名中 学外者（外部理事）は 上記2名を含み 11名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	青山学院大学（全学部共通）
設置者名	学校法人 青山学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>教員は「講義内容 WEB 入稿システム」を用いて講義内容を作成し、事務局において内容確認後、大学 HP を利用して学内外に公表している。</p> <p>スケジュール（2023 年度の場合）</p> <p>入稿期間：2022 年 11 月 18 日～2023 年 2 月 25 日</p> <p>内容確認：2023 年 3 月 2 日～3 月 23 日</p> <p>公表：2023 年 3 月 24 日</p> <p>入稿項目：講義概要、達成目標、履修条件、授業計画（事前・事後学習含）、授業方法、成績評価方法、教科書、参考書、授業関連情報（連絡先等）、メッセージ</p>	
授業計画書の公表方法	<p>インターネットによる公表</p> <p>http://syllabus.aoyama.ac.jp/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>講義内容の成績評価方法欄に成績評価の種別として以下の 4 分類に区分し、それぞれの割合（合計で 100%）、評価基準等を明示している。</p> <p>成績評価の種別：試験／レポート／平常点／その他</p> <p>なお、授業出席自体を成績評価とみなすことは不相当であることを講義内容入稿マニュアルに記載している。</p> <p>成績評価については、全学部学生に対して「履修ガイド」を配布し、大学としての成績評価の方法（グレード表記）、基準を明示し、厳格かつ適正に実施しています。</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では成績評価の客観的指標として GPA を用いています。履修した科目には A、B、C、XX などの成績（グレード）が与えられますが、これらの評価を以下の基準により数値化して 1 単位ごとの平均を算出しています。

AA : 4.0 A : 3.0 B : 2.0 C : 1.0 XX (不合格) : 0.0 X (欠席等評価不能) : 0.0

上記の評点を以下の計算式に当てはめて GPA を算出しています。

$$\frac{\text{AA の単位数} \times 4 + \text{A の単位数} \times 3 + \text{B の単位数} \times 2 + \text{C の単位数} \times 1}{\text{AA の単位数} + \text{A の単位数} + \text{B の単位数} + \text{C の単位数} + \text{XX の単位数} + \text{X の単位数}}$$

なお、「合格」「不合格」で判定される一部の科目については GPA 算出の対象外としている旨、履修ガイドに記載している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

インターネットによる公表および学年初頭の履修ガイダンス
時に冊子配布
https://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では各学部学科においてディプロマポリシーを公表し、本ポリシーに従い適切に実施しています。以下に各学部のディプロマポリシーを記載します。

文学部

(概要)

英米文学科

■知識・技能

英語という言語、及び英語によるコミュニケーションについて客観的に理解し、英語を通じた相互理解ができる語学的な知識と運用能力とを持っている。

■思考力・判断力・表現力

1) 英語、英語文献、英語圏の文化やコミュニケーションの仕組みを具体的に理解し、情報を取得するための適切な手段を選択・判断し、その情報を分析・再構築するための思考力、理解を応用するための知識と運用能力を持っている。

2) 英語で書かれた文献・文学作品の多数の実例に触れ、異なる価値観を持つ人間を理解する背景知識と理解に基づく洞察力を持っている。

3) 英語圏を中心とした異文化を理解し、文化を越えた相互理解ができる、異文化に対する知識と理解に基づく洞察力を持っている。

■意欲・関心・態度

異なった文化・社会・価値観に関心を持ち、それらを社会的に活用する意欲を有している。

フランス文学科

■知識・技能

・フランス語を運用するための基礎的な技能を身に付けている。

・幅広い教養、とりわけフランス語圏の言語、文学、文化に関する基礎的な知識を身に付けている。

・人文学における基礎的な研究手法を習得している。

■思考力・判断力・表現力

フランス語圏の言語、文学、文化の諸問題に取り組み、その成果を日本語またはフランス語で秩序立てて説得的に表現することができる。

■意欲・関心・態度

フランス語圏の言語、文学、文化の学習・研究を通じて得た知見や技能を広く社会に還元しようという意欲を有している。

日本文学科

■知識・技能

日本文学、日本語学、日本語教育学、中国古典文学（漢文学）に関する基本的な知識を総合的・体系的に習得し、幅広い専門的・教養的視野に立って、日本の言語・文学・文化を見渡すことができる。

■思考力・判断力・表現力

・日本文学、日本語学、日本語教育学、中国古典文学（漢文学）に関する総合的・体系的知識の持つ意味を、自分自身、そして日本社会・人間社会と関連づけて理解できる。

・情報リテラシー、論理的思考力、問題発見力、問題解決力、高度な表現力を身につけている。

■意欲・関心・態度

日本の言語・文学・文化を総合的に見渡すことのできる広い視野と、自らあるいは他

者と協働して問題を発見し解決する力をもって、積極的に社会に貢献する意欲がある。

史学科

■知識・技能

歴史学や考古学の広い知識を有し、日本史・東洋史・西洋史・考古学について理解するための、基礎的な方法を習得している。

■思考力・判断力・表現力

歴史的思考力を身につけ、その内容を卒業論文などで論理的に表現することができる。

■意欲・関心・態度

歴史的な思考にもとづき、現代社会を理解し、社会的な貢献をする意欲を有している。

比較芸術学科

■知識・技能

古典芸術諸領域（美術・音楽・演劇映像）についての専門的知識と鑑賞の方法を身につけ、学問的な研究方法の基礎を習得している。

■思考力・判断力・表現力

・想像力・創造力・豊かな感性を持ち、芸術諸領域を批判的に思考することができる。
・古典芸術諸領域（美術・音楽・演劇映像）についての鑑賞や学びを明確に伝えることができる。

■意欲・関心・態度

古典芸術諸領域（美術・音楽・演劇映像）の学びを通じて諸芸術への深い探究心を持ち、人間性への関心を高め、社会に活用する意欲を有している。また、自ら問題を発見し、それに適した考察や解決法を導く態度を育んでいる。

教育人間科学部

（概要）

教育学科

■知識・技能

全学的な教養教育と教育学に関する専門教育によって、人間の一生における成長過程を幅広く捉えることのできる理論的な知と実践的な知を有している。

■思考力・判断力・表現力

ますます多元化し複雑化する現代社会における諸問題を理解し、それを明らかにする科学的探究などに必要な対応能力（思考力・判断力・表現力を含む）を有している。

■意欲・関心・態度

教育の本質と理想的な姿を追求するとともにその担い手である人間という存在への理解を深めようとする意欲（関心・態度を含む）を有している。

心理学科

■知識・技能

・人間を多様な視点から見るための広い教養を持っている。
・心の多様性と普遍性を理解し、心理学の学問内容と研究方法を身につけている。
・心理学の基礎・応用に関連する研究あるいは実践活動を遂行するために必要な、実験・調査・面接・テストを実施する技術を習得している。

■思考力・判断力・表現力

・心理学の研究や調査を計画・立案し、報告書にまとめる能力を身につけている。
・研究成果や自分の考えを的確に発信することができる。

■意欲・関心・態度

- ・国内外の資料を自ら探し、批判的実証的態度をもってそこから学ぶことができる。
- ・心理学の知識と方法論を応用して、社会、企業、組織、地域、家庭におけるさまざまな問題を発見し、解決に取り組む意欲を有している。

経済学部

(概要)

経済学科

■知識・技能

- ・経済学を理論・政策・歴史の側面から総合的に修得している。
- ・修得した専門的知識を社会生活に応用し、または大学院レベルの専門的学習にスムーズに移行できる力を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

現実の経済社会で生じている諸問題を自ら分析することができる。

■意欲・関心・態度

強い意志と行動力をもって自主的に率先して社会に貢献する意欲を有している。

現代経済デザイン学科

■知識・技能

- ・公共経済学および地域経済学をベースとした経済学の基礎を体系的に修得している。
- ・修得した専門的知識を現代経済の諸問題に応用させながら、市場経済を主体的に動かしていく力を持っている。

■思考力・判断力・表現力

現実の経済社会で生じている諸問題に対し、自らの利害を超えて、社会のためにどのような制度や政策が望ましいのかについて、公平な経済社会実現という観点から、より良い制度や施策を提案できる高い学問的見識を身につけ、かつわかりやすく一般に説明できる。

■意欲・関心・態度

自律した思考に基づき、行動力と柔軟性・協調性をもって社会に貢献する意欲を有している。

法学部

(概要)

法学科

■知識・技能

豊かで系統的な法知識と、それを現実に適用して妥当な解決を導く技能を身につけ、法曹界、国家や国際機関、国内外の民間企業等において、それらを活用することができる。

■思考力・判断力・表現力

社会の中で生じている複雑な諸問題について、論理と合理性、衡平の観点から関係者間の利害を総合的に判断できるバランス感覚を備えるとともに、法を用いて妥当な解決を導くための法的思考力・判断力、及びそれを説得的に表現する力を有している。

■意欲・関心・態度

日常生活（例えば家庭生活・職業生活等）においては、客観的正義の観点をもちつつも、周囲の人々の立場や状況、心情に配慮する実質的公平の観点やキリスト教の慈愛の精神をもって行動できる。

ヒューマンライツ学科

■知識・技能

人権の理念、及び、人権が国内法秩序においても国際社会においても共通の価値基準となっていることを理解した上で、現実に人権侵害行為に直面した場合にこれを排除し救済する手段としてどのような制度が存在するかを具体的に理解し、国家や国際機関、国内外の民間企業等において、その理解を活用することができる。

■思考力・判断力・表現力

社会の中で生じている様々な人権問題について、それが人権の問題であるということ を正しく認識できるような問題発見能力を持つとともに、法を用いてそれを解決するための法的思考力・判断力、及びそれを説得的に表現する力を有している。

■意欲・関心・態度

日常生活（例えば家庭生活・職業生活等）においては、自分のみならず他者の人権の尊重という観点から適切な配慮をもって行動できる。また、広く政治や社会の問題に関心をもち続け、人権法を学んだ者としての正義感及びキリスト教の慈愛の精神を持った一市民として行動できる。

経営学部

(概要)

経営学科

■知識・技能

・営利・非営利の組織体の本質を理解し、そのマネジメントについて理論的・実践的知識を修得している。

・マネジメントに関する専門的概念を理解できるとともに、マネジメントに不可欠な情報処理と分析能力を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

・営利・非営利の組織体の直面する様々なマネジメント課題について、専門的な知見をもとに分析し、その対応策を経営・会計諸理論に基づいて総合的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

・世界を舞台にして、さまざまな国の企業人に対して、相手の歴史や文化、宗教的な背景等を考慮しつつ、自分の考えを適切に表現できる。そしてこれを可能にする語学力を身につけている。

■意欲・関心・態度

・企業人ならびに社会人としての使命感や責任感を持ち、主体的に社会貢献に取り組むことができる。

・効果的に集団作業を進め、集団の成果に貢献する意欲を有している。

マーケティング学科

■知識・技能

・消費社会の動向や市場変化の意味を理解し、営利・非営利の組織体による価値創造のために必要な理論的・実践的知識を修得している。

・マーケティングに関する専門的概念を理解できる。

・マーケティングに不可欠な情報処理と分析能力を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

営利・非営利の組織体の直面するさまざまなマーケティング課題について、専門的な知見をもとに分析し、その対応策をマーケティング諸理論に基づいて総合的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

世界を舞台にして、さまざまな国の企業人に対して、相手の歴史や文化、宗教的な背景等を考慮しつつ、自分の考えを適切に表現できる。そしてこれを可能にする語学力を身につけている。

■意欲・関心・態度

- ・企業人ならびに社会人としての使命感や責任感を持ち、主体的に社会貢献に取り組むことができる。
- ・効果的に集団作業を進め、集団の成果に貢献する意欲を有している。

国際政治経済学部

(概要)

国際政治学科

■知識・技能

国際社会において活躍するために必要となる国際政治分野の専門的な知識（とくに、理論分野（国際関係理論、政治理論、国際法など）、歴史・思想分野（外交史、政治思想など）、地域研究分野に関する専門的な知識）および高い語学力を有している。

■思考力・判断力・表現力

「政治外交・安全保障コース」

国際社会において生じている諸問題（とくに、国家間の問題、地域の問題など）について、国家または地域の視点に立ち、国際政治学の観点から論理的に思考し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を有している。

「グローバル・ガバナンスコース」

国際社会において生じている諸問題（とくに、地球規模問題、グローバル・イシューなど）について、グローバルな視野に立ち、国際政治学の観点から論理的に思考し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を有している。

■意欲・関心・態度

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる意欲・関心・態度を有している。

国際経済学科

■知識・技能

国際社会において活躍するために必要となる国際経済分野の専門的な知識（とくに、理論分野（経済理論、国際経済学、開発経済学など）、分析方法（統計分析、計量経済学など）に関する専門的な知識）および高い語学力を有している。

■思考力・判断力・表現力

「国際経済政策コース」

国際社会において生じている諸問題（とくに、国際的な経済相互依存関係など）について、国または産業レベルの視点に立ち、国際経済学の観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を有している。

「国際ビジネスコース」

国際社会において生じている諸問題（とくに、国際的な経済相互依存関係など）について、企業レベルの視点に立ち、国際経済学の観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を有している。

■意欲・関心・態度

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる意欲・関心・態度を有している。

国際コミュニケーション学科

■知識・技能

国際社会において活躍するために必要となる国際コミュニケーション分野の専門的な知識（とくに、言語、文化、コミュニケーションの三分野に関する専門的な知識）および高い語学力を有している。

■思考力・判断力・表現力

国際社会において生じている諸問題（とくに、言語・文化などを背景とする、人間や

人間が構成する組織の間の相互理解に関する問題) について、グローバルな視点に立ち、国際コミュニケーションの観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を有している。

■意欲・関心・態度

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる意欲・関心・態度を有している。

総合文化政策学部

(概要)

■知識・技能

文化の創造と文化社会の形成、国際的な文化交流の促進のために必要な人文科学および社会科学、専門分野の理解に益する自然科学の基礎知識を習得している。

多様な文化を通じて活躍することのできる創造的世界市民としての外国語、とりわけ英語能力、さらにメディアを通じた情報発信のための情報処理能力を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

文化に関わる広範な領域のリーダー、専門人として活躍しうるために不可欠な、実践の場における柔軟な文化創造力を身につけている。

■意欲・関心・態度

キリスト教理念に基づき、真理を謙虚に追及し、創造的世界市民としての人類の未来と国際社会に貢献する意欲を有している。

公共心の涵養により、偏見なく他者と交流し、共感することができるための態度を身につけている。

理工学部

(概要)

物理科学科

■知識・技能

専門能力として、基礎および応用の物理学に基づき、種々の対象を分析し、問題点を理解し解決できる能力を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち多様な問題に対しその解決に向けたアプローチ方法の基礎を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づく対象の観察と問題把握、分析と解析の訓練に基づく洞察力と判断力、およびこれらを客観的かつ論理的に再構築し、あるいは本質的な点を抽出しモデル化することによって、対象の問題点とその解決案を他者に伝える能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

現実世界で遭遇する未知の問題を理解する探究心を身につけている。

難しい問題にも関心を持ち、真摯な態度で問題に向かい合い、解決するために創造力を発揮できる技術者・研究者となる意欲を持っている。

数理サイエンス学科

■知識・技能

専門能力として、種々の対象を数理的モデルに基づいて分析し、問題点を理解し論理的に解決できる能力を身につけている。基礎的素養として、英語、情報技術を身につけている。すなわち、多様な問題に対しその解決に向けたアプローチの方法の基礎を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づく対象の観察と問題把握、分析と解析の訓練に基づく洞察力と判断

力、およびこれらを客観的かつ論理的に再構築し、あるいは本質的な点を抽出しモデル化することによって、考察対象の問題点とその解決案を他者に伝える能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

現実世界で遭遇する未知の問題を理解する探究心を身につけている。難しい問題にも関心を持ち、真摯な態度で問題に向き合い、解決するために創造力を発揮できる研究者、教員、技術者となる意欲を持っている。

化学・生命科学科

■知識・技能

化学及び生命科学分野の基礎知識と、「物理化学」、「無機・分析化学」、「有機化学」、「生命科学」の専門知識を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づく専門知識の実践に関する能力、および研究に関する基礎的な学習および実践能力とプレゼンテーション能力、論文執筆能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

化学及び生命科学分野の基礎知識と専門知識を理解する探究心を身につけている。難しい問題にも関心を持ち、それを解決するための実践的な能力を発揮できる技術者・研究者となる意欲を持っている。

電気電子工学科

■知識・技能

専門能力として、「材料～デバイス」、「電磁波～情報・通信」、「電子回路～電子応用」、「パワーエレクトロニクス」の領域から1つ以上の系統だった知識を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち、電気電子工学に携わる技術者の基礎を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づく精密な論理展開の理解、実践的活用の鍛錬に基づく洞察力と判断力、およびこれらを他者に伝えるためのプレゼンテーション能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

数理思考や基礎知識の理解だけではなく、直接見ることができない電気電子現象を理解する探究心を身につけている。

難しい問題にも関心を持ち、研究者・技術者として必要な社会性や倫理観を身につけ、チームメンバー同士の連携を深め、何事にも協調性を持ちながら積極的に取り組むことができる技術者となる意欲を持っている。

機械創造工学科

■知識・技能

専門能力として、力学（材料、熱、流体および機械の動きに関する知識）に基づく現象の分析力と、機械構造物を設計・製作できる統合力を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち、責任を持って説明できる技術者（アカウンタブル・エンジニア）の基礎を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づくリスクの察知、観察能力の鍛錬に基づく洞察力と判断力、およびこれらをモデル化し、他者に伝える能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

実験技術、シミュレーション技術等を用いた、実物のリアルな世界で現象を理解する探究心を身につけている。

難しい問題にも関心を持ち、責任を持って説明できる技術者（アカウントブル・エンジニア）、解決するために創造力を発揮できる技術者となる意欲を持っている。

経営システム工学科

■知識・技能

専門能力として、モデル化技術、分析技術、最適化技術を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち、論理的思考力、専門知識・専門技術を活用した、課題解決の実践能力の基礎を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づく論理的思考能力に基づく洞察力と判断力、およびこれらを数理的な手法を使って体系的にモデル化し、コミュニケーションできる能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

社会や組織の仕組みを理解する探究心を身につけている。

難しい問題にも関心を持ち、企業や社会をより良く機能させるための管理技術と、システムの開発から実際の導入までを考察して実践できる論理的思考能力と判断力を発揮できる技術者となる意欲を持っている。

情報テクノロジー学科

■知識・技能

基礎知識として、英語、数学、情報技術の素養を身につけている。

専門知識として、情報数学・確率統計・システム設計・ソフトウェア設計などの情報技術の基礎知識を持ち、それを実問題に応用することができる。

実践能力として、システム開発、ソフトウェアプログラミングなどの問題解決能力を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づき、システムやネットワークの動作や挙動を推定し、妥当性や異常を判断することができる。

異常現象や想定外の動作に対して、洞察力と判断力を駆使して原理や原因を分析することができる。

問題を解決するための新技術の着想と提案ができ、それを実現する実行力を身につけている。

問題解決を可視化し、情報共有と集合知へ高めるコミュニケーション能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

情報技術とその応用先の他分野技術を積極的に吸収し、実現象を理解する探究心を身につけている。

難しい問題にも関心を持ち、解決するために創造力を発揮し、課題解決を実践できる技術者となる意欲を持っている。

社会情報学部

（概要）

■知識・技能

現代社会を取り巻く「人間、社会、情報」に関わる広い知識を身につけている。

数理的素養、論理的思考、コミュニケーション能力および情報の活用について、その基礎となる知識・技能を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

現代社会を取り巻く「人間、社会、情報」が複雑に絡み合った問題について、それらが単一の専門領域だけでなく複数の専門領域からアプローチする必要性を理解して

いる。

現代社会を取り巻く「人間、社会、情報」が複雑に絡み合った問題について、その要素となる一つ以上の専門領域について、その基礎を身につけ、自ら論理的に思考し、判断することができる。

現代社会を取り巻く「人間、社会、情報」が複雑に絡み合った問題を捉え、その問題解決に向けた取り組みについて、一定の方針を立てることができる。

■意欲・関心・態度

「人間、社会、情報」に関わる広い知識をもって、社会問題に取り組むプロジェクトの一員になる意欲がある（チームワーク）。

「人間、社会、情報」に関わる広い知識をもって、持続的に学ぶ意欲がある（学び）。

地球社会共生学部

（概要）

■知識・技能

国語、数学、社会などの科目で培われた高等学校卒業相当の文献理解力を有している。

■思考力・判断力・表現力

・自己表現力、論理的思考力を有している。
・グローバルな諸課題について考え、判断して、自分の意見を表現できる力を有している。

■意欲・関心・態度

・グローバルな諸課題に対し、強い好奇心・関心を有している。
・その問題を解決する方法を学びたいという探究心を有している。
・知識を得ることだけでなく、体験すること、行動することに意欲を有している。
・グローバル人材に必要な英語資格を目指して持続的に学習する意欲を有している。

コミュニティ人間科学部

（概要）

■知識・技能

・子ども・若者、女性、高齢者、障がい者が自律的能動的に活動できるような環境を整えるための知識を有している。
・教育学・社会学分野に基づく広い社会科学的な素養として、地域社会についての深い理解を身につけている。
・地域に住む人間について体験的な実習に基づく共感的な理解力を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

教育・福祉、職業・文化、心理、制度・行政等の諸側面から、専門的に現状を把握・分析し、問題状況を理解し、必要な解決策を検討し、行政や民間諸機関の具体的な行動計画を策定、遂行できる能力を有している。

■意欲・関心・態度

・社会的な問題に関して、その解決のために積極的に行動する意欲を有している。
・社会的な問題の具体的な解決方策への探求心を有している。
・教育学や社会学の理解に基づいて備わった共生に関する知見に基づき、地域で他者と協力して活動できる力を身につけている。

また、履修ガイドにおいては以下のように卒業について定義し、全学生に対して周知をしています。

卒業：本学に4年（8期）以上在学（休学期間を除く）し、なおかつ4年次に1年（2期）以上の在学が必要です。その上で、各学部で定められた卒業に必要な単位を修得した者に卒業が認められ、学士の学位が授与されます。

卒業判定は、9月卒業は9月の上旬に開催される教授会、3月卒業は3月上旬に開催される教授会において審議・決定され、その後学生ポータルを用いて通知しています。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	インターネットによる公表 https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	青山学院大学
設置者名	学校法人 青山学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.aoyamagakuin.jp/introduction/data/finance/index.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.aoyamagakuin.jp/introduction/data/finance/index.html
財産目録	http://www.aoyamagakuin.jp/introduction/data/finance/index.html
事業報告書	http://www.aoyamagakuin.jp/introduction/data/finance/index.html
監事による監査報告(書)	http://www.aoyamagakuin.jp/introduction/data/finance/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html ）
文学部は、「人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究」を行うという大学の理念のもと、歴史ある人文学の成果を共通の知的基盤として、文学部を構成する 5 学科それぞれの専門性に立脚した目標を設定している。各学科は、その学問領域の特徴を基礎とし、学生一人一人が人間と文化の多様な営みを理解すること、そのための資質を形成することを教育の目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html ） （概要）
英米文学科 ■知識・技能 英語という言語、及び英語によるコミュニケーションについて客観的に理解し、英語を通じた相互理解ができる語学的な知識と運用能力とを持っている。 ■思考力・判断力・表現力 1) 英語、英語文献、英語圏の文化やコミュニケーションの仕組みを具体的に理解し、情報を取得するための適切な手段を選択・判断し、その情報を分析・再構築するための思考力、理解を応用するための知識と運用能力を持っている。 2) 英語で書かれた文献・文学作品の多数の実例に触れ、異なる価値観を持つ人間を理解する背景知識と理解に基づく洞察力を持っている。 3) 英語圏を中心とした異文化を理解し、文化を越えた相互理解ができる、異文化に対する知識と理解に基づく洞察力を持っている。 ■意欲・関心・態度 異なった文化・社会・価値観に関心を持ち、それらを社会的に活用する意欲を有している。
フランス文学科 ■知識・技能 ・フランス語を運用するための基礎的な技能を身に付けている。 ・幅広い教養、とりわけフランス語圏の言語、文学、文化に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・人文学における基礎的な研究手法を習得している。 ■思考力・判断力・表現力 フランス語圏の言語、文学、文化の諸問題に取り組み、その成果を日本語またはフランス語で秩序立てて説得的に表現することができる。 ■意欲・関心・態度 フランス語圏の言語、文学、文化の学習・研究を通じて得た知見や技能を広く社会に還元しようという意欲を有している。
日本文学科 ■知識・技能 日本文学、日本語学、日本語教育学、中国古典文学（漢文学）に関する基本的な知識を総合的・体系的に習得し、幅広い専門的・教養的視野に立って、日本の言語・文学・文化を見渡すことができる。 ■思考力・判断力・表現力

・日本文学、日本語学、日本語教育学、中国古典文学（漢文学）に関する総合的・体系的知識の持つ意味を、自分自身、そして日本社会・人間社会と関連づけて理解できる。
・情報リテラシー、論理的思考力、問題発見力、問題解決力、高度な表現力を身につけている。

■意欲・関心・態度

日本の言語・文学・文化を総合的に見渡すことのできる広い視野と、自らあるいは他者と協働して問題を発見し解決する力をもって、積極的に社会に貢献する意欲がある。

史学科

■知識・技能

歴史学や考古学の広い知識を有し、日本史・東洋史・西洋史・考古学について理解するための、基礎的な方法を習得している。

■思考力・判断力・表現力

歴史的思考力を身につけ、その内容を卒業論文などで論理的に表現することができる。

■意欲・関心・態度

歴史的な思考にもとづき、現代社会を理解し、社会的な貢献をする意欲を有している。

比較芸術学科

■知識・技能

古典芸術諸領域（美術・音楽・演劇映像）についての専門的知識と鑑賞の方法を身につけ、学問的な研究方法の基礎を習得している。

■思考力・判断力・表現力

・想像力・創造力・豊かな感性を持ち、芸術諸領域を批判的に思考することができる。
・古典芸術諸領域（美術・音楽・演劇映像）についての鑑賞や学びを明確に伝えることができる。

■意欲・関心・態度

古典芸術諸領域（美術・音楽・演劇映像）の学びを通じて諸芸術への深い探究心を持ち、人間性への関心を高め、社会に活用する意欲を有している。また、自ら問題を発見し、それに適した考察や解決法を導く態度を育んでいる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html>）

（概要）

英米文学科

英米文学科の履修科目を「英語科目」「専門科目」の2つに分類し、前者によって英語の運用能力、後者によって英語圏の文学・文化・言語・コミュニケーションについての専門的知識を修得しつつ英語運用能力を社会的に活用する力を獲得できるよう、カリキュラムを構成する。また、「英語科目」と「専門科目」を連結し総合するために、1・2年次からの専門科目群を適切に配置する。

【特色】

「英語科目」は、Integrated English を核とする多彩な授業配置によって総合的に英語の運用能力向上をはかる。「専門科目」では、「イギリス文学・文化」、「アメリカ文学・文化」、「グローバル文学・文化」、「英語学」、「コミュニケーション」、「英語教育学」の6コース制により、専門的知識を一層深化させることを可能とする。

■知識・技能

英語という言語、及び英語によるコミュニケーションについて客観的に理解し、英語を通じた相互理解と仲介ができる語学的な知識と運用能力をはぐくむのに十分な科目数を配置する（Integrated English、専門科目等）。

■思考力・判断力・表現力

英語、英語文献、英語圏の文化やコミュニケーションの仕組みを具体的に理解し、その理解を応用するのに十分な知識と運用能力をはぐくむのに十分な科目を配置する（演習等の

専門科目)。

英語で書かれた文献・文学作品の多数の実例に触れ、異なる価値観を持つ人間を理解する背景知識と理解に基づく洞察力をはぐくむのに十分な科目を配置する(特講等)。

英語圏を中心とした異文化を理解し、文化を越えた相互理解ができる、異文化に対する知識と理解に基づく洞察力をはぐくむのに十分な科目を配置する(特講、基礎演習等の専門科目)。

■態度

異なった文化・社会・価値観に関心を持ち、それらを社会的に活用する意欲をはぐくむ科目と機会を十分に配置する(全科目)。

フランス文学科

■知識・技能

- ・学科のフランス語科目などを通じてフランス語の運用能力を身につける。
- ・青山スタンダード科目や文学部共通科目、学科の講義科目や演習などを通じてさまざまな学問分野の知見を深める。
- ・フランス語圏の言語、文学、文化について調べ、考え、表現するための基本的技能を習得する。

■思考力・判断力・表現力

学科の講義科目や演習、卒業論文などでフランス語圏の言語、文学、文化の諸問題に取り組み、その成果を日本語またはフランス語で秩序立てて説得的に表現できるようにする。

■意欲・関心・態度

個々の関心に応じて講義や演習を履修し、フランス語圏の言語、文学、文化に関する学習・研究に主体的に取り組む。また、そうした学習・研究の社会的意義について絶えず問う姿勢を養う。

日本文学科

■知識・技能

学科専門科目の履修を通して、日本文学、日本語学、日本語教育学、中国古典文学(漢文学)の知識と方法を習得するとともに、青山スタンダード科目や文学部共通科目の履修を通して、幅広い教養と世界の言語・文学・文化についての多様な視点を学ぶ。

■思考力・判断力・表現力

学科演習科目において、専門的なテーマに関する情報収集・読解・分析・発表・討論を行い、文学・語学の感性を磨くとともに、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見力、問題解決力、表現力を高める。

■意欲・関心・態度

- ・日本の言語・文学・文化を総合的に見渡すことのできる広い視野を養う。
- ・専門テーマに関する情報収集・読解・分析・発表・討論を通して、自らあるいは他者と協働して問題を発見し解決する力を高める。

史学科

■知識・技能

日本史・東洋史・西洋史・考古学を地域や時代をこえて幅広く学び、また、青山スタンダード科目や文学部共通科目などを通じて、基礎的な知識を獲得し、歴史理解の技能を習得する。

■思考力・判断力・表現力

講義や史料の講読、演習、卒業論文の執筆などを通じて、歴史学や考古学の基本的な方法である史料批判の方法を習得し、その成果を表現することができる。

■意欲・関心・態度

歴史学や考古学の基本的な方法の習得やフィールドワークなどを通じて、自ら問題を発見し、考え、その解決をめざす能力を獲得する。

比較芸術学科

■知識・技能

青山スタンダード科目や文学部共通科目、学科の古典芸術諸領域（美術・音楽・演劇映像）についての専門教育科目（基礎演習、原書講読、鑑賞教育、学際的比較研究など）を通じて、芸術に関する基礎的知識や鑑賞方法を身につけ、芸術理解の技能を習得する。

■思考力・判断力・表現力

学科の講義科目や演習、卒業論文指導などで古典芸術諸領域（美術・音楽・演劇映像）についての批判的思考・比較研究を学び、その成果を卒業論文などで表現することができる。

■意欲・関心・態度

古典芸術諸領域（美術・音楽・演劇映像）を幅広く学ぶことで、芸術がもつ本来の意義、人間や社会との関わりについて理解を深める。さらに、自ら問題を発見し、考え、その解決をめざす能力を獲得する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html>）

（概要）

英米文学科

■知識・技能

高等学校で学習する国語、外国語、地理歴史、公民などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

■思考力・判断力・表現力

物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

■意欲・関心・態度

英語圏の文学・語学・文化に興味・関心・好奇心を持ち、生活や文化・価値観・考え方の違う世界の人々との共生を通じて社会に貢献する意欲を持っている。

フランス文学科

■知識・技能

高等学校で学習する国語、外国語、地理歴史などについて、高等学校卒業相当の知識を有している。

■思考力・判断力・表現力

・上記の知識に基づいた問題解決能力を有している。
・文章を読んでその内容を的確に把握したうえで、それに対する自分の考えを秩序立てて表現することができる。

■意欲・関心・態度

フランスの言語、文学、文化などに関心を持ち、それらについてより深く学ぼうという意欲がある。

日本文学科

■知識・技能

国語、外国語、地理歴史、公民などについて、高等学校卒業相当の知識を有している。

■思考力・判断力・表現力

読解・分析・発表・討論を行うための日本語の高い理解・表現能力と情報や知識を総合的に捉える論理的思考力を有している。

■意欲・関心・態度

多様な文化に対して開かれた心を持ち、他者と協働して積極的に社会に貢献する意欲がある。

史学科

■知識・技能

<p>国語、外国語、地理歴史、公民などについて、高等学校卒業相当の知識を有している。</p> <p>■思考力・判断力・表現力 歴史学や考古学への関心を論理的に表現することができる。</p> <p>■意欲・関心・態度 歴史学や考古学への関心を通じて、変化する世界の情勢や文化、人間と社会について理解しようとする意欲を有している。</p> <p>比較芸術学科</p> <p>■知識・技能 国語、外国語、地理歴史、芸術などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。</p> <p>■思考力・判断力・表現力 ・物事を多面的かつ論理的に考察することができる。 ・自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。</p> <p>■意欲・関心・態度 ・芸術、人間、自然、文化にかかわる諸問題に深い関心を持ち、大学での学びを通じて、自らの感性を磨き、社会に貢献する意欲を有している。 ・積極的に他者とかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。</p>

<p>学部等名 教育人間科学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html）</p> <p>幅広い教養と深い専門的識見を兼ね備えた上で、より良い社会の形成に寄与しようとする意欲を持つ人材の育成を目指す。また、専門家の養成機関として、世の中に役立つ具体的な知恵や実践的技術を修得することに重点を置く学びの場を提供する。 人間の成長と発達に関する学問分野、および感覚・知覚の基礎的領域から社会・臨床の応用領域にいたる学問分野の最新の成果をふまえて、「科学的」「人間学的」「総合的」に様々な社会や環境において主体的に生きる人間と、その人間の心およびその人間が果たす役割、行動や思考、人間と人間の関わり合いやコミュニケーションを研究することを通して、豊かで多様な視点に基づく問題解決志向型の人間の養成をめざす。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育学科</p> <p>■知識・技能 全学的な教養教育と教育学に関する専門教育によって、人間の一生における成長過程を幅広く捉えることのできる理論的な知と実践的な知を有している。</p> <p>■思考力・判断力・表現力 ますます多元化し複雑化する現代社会における諸問題を理解し、それを明らかにする科学的探究などに必要な対応能力（思考力・判断力・表現力を含む）を有している。</p> <p>■意欲・関心・態度 教育の本質と理想的な姿を追求するとともにその担い手である人間という存在への理解を深めようとする意欲（関心・態度を含む）を有している。</p> <p>心理学科</p> <p>■知識・技能 ・人間を多様な視点から見るための広い教養を持っている。 ・心の多様性と普遍性を理解し、心理学の学問内容と研究方法を身につけている。 ・心理学の基礎・応用に関連する研究あるいは実践活動を遂行するために必要な、実験・</p>

調査・面接・テストを実施する技術を習得している。

■思考力・判断力・表現力

- ・心理学の研究や調査を計画・立案し、報告書にまとめる能力を身につけている。
- ・研究成果や自分の考えを的確に発信することができる。

■意欲・関心・態度

- ・国内外の資料を自ら探し、批判的実証的態度をもってそこから学ぶことができる。
- ・心理学の知識と方法論を応用して、社会、企業、組織、地域、家庭におけるさまざまな問題を発見し、解決に取り組む意欲を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html>）

（概要）

教育学科

教育学科は、学科の人材育成目的の達成のため、(1) 語学教育として外国語科目（英語科目）、(2) 教養教育として青山スタンダード科目（第二外国語科目を含む）、(3) 専門教育として以下の教育学科学科科目によって教育課程を編成する。

教育学科学科科目

- 第0群：教育学の基盤に関わる科目群
- 第I群：人間形成探究に関わる科目群
- 第II群：臨床教育・生涯発達に関わる科目群
- 第III群：教育情報・メディアに関わる科目群
- 第IV群：幼児教育学に関わる科目群
- 第V群：児童教育学に関わる科目群
- 第VI群：中等教育に関わる科目群
- 第VII群：キリスト教教育に関わる科目群

段階（学年）ごとの科目構成・配置については、次の方針を取る。すなわち、基礎教養の基盤を人間の総合的研究と位置づけ、1・2年次においては、外国語科目（英語科目）と青山スタンダード科目（第二外国語科目を含む）を履修の中心に据え、かつ教育学の各学問領域に対応する基礎的な教育学科学科科目（上記第0～V群において必修科目・選択必修科目を指定）を通して学習を進める。3年次以降は、教育学のより専門的な学習を進めるため、教育学に関わる様々な課題について、5つの履修コース（科目群）、すなわち第I群科目を中心に学ぶ人間形成探究コース、第II群科目を中心に学ぶ臨床教育・生涯発達コース、第III群科目を中心に学ぶ教育情報・メディアコース、第IV群科目を中心に学ぶ幼児教育コース、第V群科目を中心に学ぶ児童教育コースとして教育学科学科科目を履修する。

また、科目・構成配置にあたっては、次の諸点に留意する。

1) 講義科目を中心に、文化と社会の中に生きる人間の身体的・心理的発達のメカニズムと教育との関係のあり方を理論的実践的に幅広く学び、知識・技能を培う。

2) 必修の演習科目である教育学科学科科目（1年次の「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」、2年次の「応用演習Ⅰ」「応用演習Ⅱ」、3年次の「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」、4年次の「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」など）、および実習科目を中心に、思考力・判断力・表現力を培う。

3) 選択した履修コース（科目群）以外の科目群などからも科目を履修できることによって、幅広く学習分野が多様で、選択幅が広く、履修上の制約が小さいカリキュラムを設定し、個々の学生が、人間形成と社会のあり方を広い視野から学び、修得した優れた独創的な専門性を活かし、将来の方向性を的確に選択できるよう、意欲・関心・態度を培う。

心理学科

心理学科は、学科の人材育成目的の達成のため、以下のような専門教育科目（心理学科学科科目）と、外国語科目及び青山スタンダード科目（含む 第二外国語科目）で構成される教育課程を編成する。

心理学科学科科目

第Ⅰ群：基礎科目・哲学科目

第Ⅱ群：心理学領域講義科目（発達心理学・認知心理学・社会心理学領域 ほか）*

第Ⅲ群：心理学領域講義科目（発達心理学・認知心理学・社会心理学領域 ほか）

第Ⅳ群：臨床心理学領域講義科目*

第Ⅴ群：臨床心理学領域講義科目

第Ⅵ群：臨床心理学領域実習・演習科目

第Ⅶ群：演習科目

第Ⅷ群：特別研究及び卒業論文

* 第Ⅱ群・第Ⅳ群は、心理学領域講義科目・臨床心理学領域講義科目のうち、国家資格「公認心理師」受験に必要な科目である。

基礎科目（Ⅰ群）は学生の学習状況に合わせた段階的な科目配置を行う。必修科目として、1年次には「心理学概論」と「心理学基礎演習」「心理統計基礎」を通して心理学の基本的な知識と批判的実証的態度を身につける。2年次には「心をめぐる諸問題」を通して心についての多様な視点を身につけ、思考力を養うとともに、「心理学実験」と「心理学研究法」で心理学の基本的な研究方法および倫理を、「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」で基本的な統計処理技能を習得する。それと合わせて、2年次・3年次には、各自の興味のある研究領域に応じて、コンピュータープログラミングや高度な統計技法、専門的な研究手法を身につける科目や、心について哲学的な考察を深めるための科目も選択必修として用意する。

Ⅰ群に含まれる哲学の講義科目も含め、多彩な講義科目（Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群・Ⅴ群）と演習科目（Ⅵ群・Ⅶ群）は、基礎科目での学習の進行状況を配慮した学年配置を行う。特に認知心理学・発達心理学・社会心理学・臨床心理学の4領域については、1年次配置の各概論から始まり、2年次配置の専門的な内容の科目、3年次配置の特別講義へと、順を追って学習を進められる配置を行っている。学生は、これらの中から各自の興味を中心に据えた科目選択を行うことによって、専門の知識や技能を向上させるとともに、個別の問題解決への意欲・態度を養う。また、2・3年次には、演習科目（Ⅶ群）の中から必修科目として「心理学応用演習」を履修することによって、先行研究を読み解く能力とともに、思考力・判断力・表現力を培う。さらに外国語の文献や哲学の文献を読み解く力を養いたい学生に対しては、そのための演習も用意する。

なお、3年次以降は、各自の希望進路にあわせて、多彩な進路に向けて自由度の高い授業選択ができる「一般心理コース」と、将来、「公認心理師」や「臨床心理士」を目指す人のための「臨床心理コース」のいずれかを選択して履修を進めることになる。「臨床心理コース」に進んだ学生に対しては、「公認心理師」受験に必要な講義科目（Ⅱ群・Ⅳ群）と演習科目（Ⅵ群の「心理演習」）の大半を必修科目とするとともに、心理学的支援を行う上での技能・態度・意欲を養うための実習科目（Ⅵ群の「心理実習」）を選択必修として用意する。

Ⅷ群の「特別研究演習Ⅰ・Ⅱ」（3年次必修科目）では、心理学の実証研究（実験・調査・観察、面接など）を企画・実行し、研究論文を作成する。4年次の「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」（選択必修）ではさらに進んだ研究を行い、卒業論文の作成と発表を行う。また、「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、所定の哲学の講義・演習を履修した者に限り、卒業論文を哲学領域で執筆することも可能とする。これら各自の研究の遂行と研究論文および卒業論文の執筆等

<p>を通して、意欲・態度とともに思考力や判断力、表現力、実行力、発信力を高める。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育学科</p> <p>■知識・技能</p> <p>国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語などについて、高等学校卒業相当の知識を有している。</p> <p>■思考力・判断力・表現力</p> <p>人間と社会について、論理的に思考・判断し、自らの考えを適切に表現することができる。</p> <p>■意欲・関心・態度</p> <p>人間の成長・発達・形成について深い関心を持ち、教育の問題を幅広い視野から探求し、教育学と隣接分野について学ぼうとする幅広い知的好奇心と強い意欲を有している。</p> <p>心理学科</p> <p>■知識・技能</p> <p>国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語などについて高等学校卒業相当の知識を有している。</p> <p>■思考力・判断力・表現力</p> <p>物事を論理的に考察し、自分の考えを的確に表現できる。</p> <p>■意欲・関心・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の心や社会問題に関する学問や実践に強い関心を持ち、専門的に探究する志を有している。 ・多様化する現代社会に役立つ具体的な知恵と実践力を身につける意欲を有している。

<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html）</p>
<p>経済学部では、最先端の経済学を現実社会に応用させながら、市場経済を主体的に動かしていく力を育てる。同時に、公平な経済社会実現のために、より良い制度や施策を提案できる高い学問的見識と、強い意志をもって社会貢献できる行動力を培うということを教育方針としている。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>経済学科</p> <p>■知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学を理論・政策・歴史の側面から総合的に修得している。 ・修得した専門的知識を社会生活に応用し、または大学院レベルの専門的学習にスムーズに移行できる力を身につけている。 <p>■思考力・判断力・表現力</p> <p>現実の経済社会で生じている諸問題を自ら分析することができる。</p> <p>■意欲・関心・態度</p>

強い意志と行動力をもって自主的に率先して社会に貢献する意欲を有している。

現代経済デザイン学科

■知識・技能

・公共経済学および地域経済学をベースとした経済学の基礎を体系的に修得している。
・修得した専門的知識を現代経済の諸問題に応用させながら、市場経済を主体的に動かしていく力を持っている。

■思考力・判断力・表現力

現実の経済社会で生じている諸問題に対し、自らの利害を超えて、社会のためにどのような制度や政策が望ましいのかについて、公平な経済社会実現という観点から、より良い制度や施策を提案できる高い学問的見識を身につけ、かつわかりやすく一般に説明できる。

■意欲・関心・態度

自律した思考に基づき、行動力と柔軟性・協調性をもって社会に貢献する意欲を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html>)

（概要）

経済学科

「理論・数量コース」・「応用経済コース」・「歴史・思想コース」の3つのコースにおいて、履修科目を「基礎科目」「専攻科目」の2つに分類し、段階学習によって専門性を高めて行けるようカリキュラムを整備する。1年次の基礎科目により経済学の土台を作り、その土台のうえで専攻科目によって体系的な学問理解を深めるような科目編成を行う。それぞれの科目は多様な学問領域にわたるもので、各自の将来の職業を視野に入れつつ、学修できるシステムとする。

現代経済デザイン

社会経済を取り巻く具体的な諸問題を探求し、解決策を提案できる力を養うため、公共経済学と地域経済学の2つを柱とした系統的な科目群を用意し、演習・実習科目が、互に関連性と統一性をもって配置され、段階的に専門知識を深めることができるカリキュラムとする。1・2年次ではコア科目を配置し、2年次後半から「公共コース」と「地域コース」に分かれ、選択したコースに応じて3・4年次に専門科目へと進むように編成する。なお、各コースを包含する形でGIS（地理情報システム）による空間分析も学習することができる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html>)

（概要）

経済学科

■知識・技能

国語、外国語、地理歴史、公民、数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業程度の知識を有している。

■思考力・判断力・表現力

・自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。
・物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをもとめることができる。

■意欲・関心・態度

学科の特徴を理解した上で、言語・文化・文学・歴史・人間・思想・地域・社会などに興味関心を持ち、それを大学における勉学を通じて追求し、社会のために役立てる意欲を有している。

現代経済デザイン学科

<p>■知識・技能 国語、外国語、地理歴史、公民、数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業程度の知識を有している。</p> <p>■思考力・判断力・表現力 ・自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。 ・物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをもとめることができる。</p> <p>■意欲・関心・態度 学科の特徴を理解した上で、言語・文化・文学・歴史・人間・思想・地域・社会などに興味関心を持ち、それを大学における勉学を通じて追求し、社会のために役立てる意欲を有している。</p>

学部等名 法学部
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html）</p> <p>法学部は、青山学院の建学の精神に立脚し、真理を謙虚に追求する姿勢、人間的資質及び法学的基礎を備えた上で、社会における様々な問題や課題に対して主体的・積極的に取り組むことのできる人材を育成する。また、これらの人材を輩出するために、社会的課題に応え、社会的公正と正義の実現に資するような専門的な研究を遂行することを研究の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html）</p> <p>（概要）</p> <p>法学科</p> <p>■知識・技能 豊かで系統的な法知識と、それを現実に適用して妥当な解決を導く技能を身につけ、法曹界、国家や国際機関、国内外の民間企業等において、それらを活用することができる。</p> <p>■思考力・判断力・表現力 社会の中で生じている複雑な諸問題について、論理と合理性、衡平の観点から関係者間の利害を総合的に判断できるバランス感覚を備えるとともに、法を用いて妥当な解決を導くための法的思考力・判断力、及びそれを説得的に表現する力を有している。</p> <p>■意欲・関心・態度 日常生活（例えば家庭生活・職業生活等）においては、客観的正義の観点をもちつつも、周囲の人々の立場や状況、心情に配慮する実質的公平の観点やキリスト教の慈愛の精神をもって行動できる。</p> <p>ヒューマンライツ学科</p> <p>■知識・技能 人権の理念、及び、人権が国内法秩序においても国際社会においても共通の価値基準となっていることを理解した上で、現実に人権侵害行為に直面した場合にこれを排除し救済する手段としてどのような制度が存在するかを具体的に理解し、国家や国際機関、国内外の民間企業等において、その理解を活用することができる。</p> <p>■思考力・判断力・表現力 社会の中で生じている様々な人権問題について、それが人権の問題であるということを正しく認識できるような問題発見能力を持つとともに、法を用いてそれを解決するための法的思考力・判断力、及びそれを説得的に表現する力を有している。</p> <p>■意欲・関心・態度 日常生活（例えば家庭生活・職業生活等）においては、自分のみならず他者の人権の尊重</p>

という観点から適切な配慮をもって行動できる。また、広く政治や社会の問題に関心を持ち続け、人権法を学んだ者としての正義感及びキリスト教の慈愛の精神を持った一市民として行動できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html>）

（概要）

法学科

■知識・技能

1年次には、法学の土台となる知識を習得する科目が配置される。同じく1年次に、つくられ固定された法律の理解にとどまらない生成され続け発展し続ける現実の法を認識するための視座となる法の哲学や比較、歴史、現代社会の課題について学ぶ科目が配置される。2年次からは、入学後の1年間で形成した法学の土台の上に、自らの興味関心や将来構想にもとづき、多種多様な法分野の科目を自ら選択し、専門の知見を積み上げていく。特定の法分野の知識に依存した狭量な思考から離れて柔軟な判断の技能を獲得するために、主としてビジネスにかかわる法分野と主として公共にかかわる法分野の両方の科目が偏りなく配置される。さらに、人々がグローバルに活動する21世紀を生き抜く技能を獲得するために、国際法や国際私法など地球規模の法状況にかかわる科目と外国法などの諸外国の法制度にかかわる科目も配置される。3・4年次では、ゼミのなかで、テーマに即した論点の分析や課題の提示といった、法的問題についての実践的な学習が行われる。

■思考力・判断力・表現力

法学の基礎知識をもとに、多様な法分野の科目において法学の思考と判断に関して学ぶことで、社会問題の解決に向けての法学的手法について、実践的で着実な思考力・判断力を身につける。また、実習系科目や演習科目等において、思考を文章や口頭で表現する力を養う。

■意欲・関心・態度

法学の学修を通して、キリスト教の精神にかなう真摯な実践を行う。すなわち、「法の支配」の実現を担う法共同体の一員として、国家の制定する法律にとどまらない現実の法の探究に挑む。さらに、自己と他者との共存の技法である法学の核心に置かれた論理性や正義認識の修得に目をむける。

ヒューマンライツ学科

■知識・技能

1年次には、人権問題について能動的に考えるための基礎的な知識を習得する科目が配置される。具体的には、ドキュメンタリー映像や当事者の講話等を通して、人権問題の現場を知り考える機会を提供する科目、法学全般の基礎を学ぶ科目、法の存在意義を理解するための科目、現場を調査する方法を学ぶ科目、政治学や経済学等の基礎を習得する科目等である。2年次からは、人権問題の解決に貢献するための知識や思考法を提供する多様な科目が配置される。例えば、戦争・紛争や貧困といった具体的なテーマを扱う科目、グローバル社会を意識して英語で学ぶ専門科目、人権問題の考察における多様なアプローチの重要性を踏まえた政治学・経済学・公共政策系の専門科目等である。3・4年次では、ゼミのなかで、解決策の評価や設計といった、人権問題解決への実践的な学習が行われる。

■思考力・判断力・表現力

既存の法の「解釈論」だけでなく、法ができるまでの政治的過程や法のあるべき姿についての「立法論」、法制度の設計についての政策論、政策評価論、国家財政についての財政学、経済政策などを広く学ぶことで、人権問題を含む社会問題の解決に向けての法学的手法について、実践的で着実な思考力・判断力を身につける。また、実習系科目や演習科目等において、思考を文章や口頭で表現する力を養う。

■意欲・関心・態度

社会の中で生じている様々な人権問題に目を向け、法、及び法を制定する政治の力によってそれらの問題を改善・解決する方向性について模索する姿勢をもつ。人は造物主により平等に造られたという、人権思想の登場に大きく影響したキリスト教の精神もふまえつつ、人権問題を他人事と考えず真摯に取り上げる態度をもつ。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html>)

（概要）

法学科

■知識・技能

- ・歴史や政治、経済についての知識を高等学校卒業相当レベルで習得している。
- ・日本語及び英語について、読む、書く、聞く、話すといった自己表現上の技能を高等学校卒業相当レベルで習得している。

■思考力・判断力・表現力

- ・高等学校卒業相当レベルで物事について論理的に考えて判断できる。
- ・自らの考えを説得力ある適切な内容と論拠を持って表現するために必要な日本語での文章表現力の基礎を習得している。

■意欲・関心・態度

- ・法学あるいは政治学に関心を持っている。
- ・入学後、「リーガルマインド」、論理的・合理的思考力と法的正義感を持って、社会的に妥当な結論を導ける「問題解決能力」を身に着ける意欲を有している。

ヒューマンライツ学科

■知識・技能

- ・歴史や政治、経済についての知識を高等学校卒業相当のレベルで習得している。
- ・日本語及び英語について、読む、書く、聞く、話すといった自己表現上の技能を高等学校卒業相当レベルで習得している。

■思考力・判断力・表現力

- ・高等学校卒業相当レベルで物事について論理的に考えて判断できる。
- ・自らの考えを説得力ある適切な内容と論拠を持って表現するために必要な日本語での文章表現力の基礎を習得している。

■意欲・関心・態度

- ・法学あるいは政治学に関心を持っている、又は、例えば障がい者の権利、子どもの権利など、具体的な人権問題に関心を持っている。
- ・入学後、「リーガルマインド」、論理的・合理的思考力と法的正義感を持って、社会的に妥当な結論を導ける「問題解決能力」を身に着ける意欲を有している。

学部等名 経営学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html>)

経営学部の教育研究上の目的は、キリスト教の信仰にもとづき、国際的な視野、優れた知性、創造的な感性、そして高い倫理観と寛容の精神を持つ者を、ビジネス界をはじめ世界中の様々な分野で活躍できる人材として送り出すこと、ならびに企業経営に関する先端的な理論や技法を教授するための教育研究拠点として活動することである。

01. 現代の企業経営に関する理論的、実証的な理解を深める教育
02. 情報技術を前提とした企業経営の実践的な技術を理解するとともに習得できる教育
03. 企業と社会との関係についての理解を深める教育
04. 人格的に優れ、社会に貢献できる有為な人材の育成
05. 学生の個性、能力、要望等の要因に弾力的に対応して、より一層、よき個性の伸長に貢

献する教育

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html>）

（概要）

経営学科

■知識・技能

・ 営利・非営利の組織体の本質を理解し、そのマネジメントについて理論的・実践的知識を修得している。

・ マネジメントに関する専門的概念を理解できるとともに、マネジメントに不可欠な情報処理と分析能力を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

・ 営利・非営利の組織体の直面する様々なマネジメント課題について、専門的な知見をもとに分析し、その対応策を経営・会計諸理論に基づいて総合的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

・ 世界を舞台にして、さまざまな国の企業人に対して、相手の歴史や文化、宗教的な背景等を考慮しつつ、自分の考えを適切に表現できる。そしてこれを可能にする語学力を身につけている。

■意欲・関心・態度

・ 企業人ならびに社会人としての使命感や責任感を持ち、主体的に社会貢献に取り組むことができる。

・ 効果的に集団作業を進め、集団の成果に貢献する意欲を有している。

マーケティング学科

■知識・技能

・ 消費社会の動向や市場変化の意味を理解し、営利・非営利の組織体による価値創造のために必要な理論的・実践的知識を修得している。

・ マーケティングに関する専門的概念を理解できる。

・ マーケティングに不可欠な情報処理と分析能力を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

営利・非営利の組織体の直面するさまざまなマーケティング課題について、専門的な知見をもとに分析し、その対応策をマーケティング諸理論に基づいて総合的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

世界を舞台にして、さまざまな国の企業人に対して、相手の歴史や文化、宗教的な背景等を考慮しつつ、自分の考えを適切に表現できる。そしてこれを可能にする語学力を身につけている。

■意欲・関心・態度

・ 企業人ならびに社会人としての使命感や責任感を持ち、主体的に社会貢献に取り組むことができる。

・ 効果的に集団作業を進め、集団の成果に貢献する意欲を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html>）

(概要)

経営学科

経営、会計、マーケティング各分野の基礎的学習を踏まえて、多様な専門科目を履修することでマネジメントに関するより深い学習を可能にする。現実の企業が直面する問題を疑似的に体験し、個人ならびに集団で問題解決に取り組む総合的な学習の場を提供する。また、世界を舞台に活躍するために不可欠な語学力を磨くとともに、教養や異文化理解を深めるための科目を用意する。経営分析や財務分析などマネジメントに関するデータ分析を学習できる科目も設定する。

専門基礎科目、共通専門科目を土台として、正統な経営学、会計学を体系的に修得する。そして企業の社会的責任や企業倫理の重要性を理解する。さらに演習を通して、主体的な学習を深め、研究の成果をまとめる力を身に付ける。

マーケティング学科

経営、会計、マーケティング各分野の基礎的学習を踏まえて、多様な専門科目を履修することでマーケティングに関するより深い学習を可能にする。現実の企業が直面する問題を疑似的に体験し、個人ならびに集団で問題解決に取り組む総合的な学習の場を提供する。また、世界を舞台に活躍するために不可欠な語学力を磨くとともに、教養や異文化理解を深めるための科目を用意する。消費者分析や販売分析などマーケティングに関するデータ分析を学習できる科目も設定する。

専門基礎科目、共通専門科目を土台として、マーケティングの基本的な視点や知識を修得する。そして価値創造や社会的視点を重視する現代マーケティングの本質を理解する。さらに演習を通して、主体的な学習を深め、研究の成果をまとめる力を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html>）

(概要)

経営学科

■知識・技能

・国語、外国語、地理歴史、公民、数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

■思考力・判断力・表現力

・自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。
・物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

■意欲・関心・態度

・学科の特徴を理解した上で、言語・文化・文学・歴史・人間・思想・宗教・地域・社会などに興味関心を持ち、それを大学における勉学を通じて追求し、社会のために役立つ意欲がある。

・チームワークを重んじ、自分の知識・技能、思考力・判断力・表現力をチームの成果のために活用する意欲がある。

マーケティング学科

■知識・技能

国語、外国語、地理歴史、公民、数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

■思考力・判断力・表現力

・自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。
・物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

■意欲・関心・態度

学科の特徴を理解した上で、言語・文化・文学・歴史・人間・思想・宗教・地域・社会などに興味関心を持ち、それを大学における勉学を通じて追求し、社会のために役立つ意欲がある。

チームワークを重んじ、自分の知識・技能、思考力・判断力・表現力をチームの成果のために活用する意欲がある。

学部等名 国際政治経済学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html>）

真理を謙虚に追求し、広く世界の人々と交わり、平和と繁栄に貢献しうる人格を陶冶する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html>）

（概要）

国際政治学科

■知識・技能

国際社会において活躍するために必要となる国際政治分野の専門的な知識（とくに、理論分野（国際関係理論、政治理論、国際法など）、歴史・思想分野（外交史、政治思想など）、地域研究分野に関する専門的な知識）および高い語学力を有している。

■思考力・判断力・表現力

「政治外交・安全保障コース」

国際社会において生じている諸問題（とくに、国家間の問題、地域の問題など）について、国家または地域の視点に立ち、国際政治学の観点から論理的に思考し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を有している。

「グローバル・ガバナンスコース」

国際社会において生じている諸問題（とくに、地球規模問題、グローバル・イシューなど）について、グローバルな視野に立ち、国際政治学の観点から論理的に思考し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を有している。

■意欲・関心・態度

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる意欲・関心・態度を有している。

国際経済学科

■知識・技能

国際社会において活躍するために必要となる国際経済分野の専門的な知識（とくに、理論分野（経済理論、国際経済学、開発経済学など）、分析方法（統計分析、計量経済学など）に関する専門的な知識）および高い語学力を有している。

■思考力・判断力・表現力

「国際経済政策コース」

国際社会において生じている諸問題（とくに、国際的な経済相互依存関係など）について、国または産業レベルの視点に立ち、国際経済学の観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を有している。

「国際ビジネスコース」

国際社会において生じている諸問題（とくに、国際的な経済相互依存関係など）について、企業レベルの視点に立ち、国際経済学の観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を有している。

■意欲・関心・態度

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる意欲・関心・態度を有している。

国際コミュニケーション学科

■知識・技能

国際社会において活躍するために必要となる国際コミュニケーション分野の専門的な知識（とくに、言語、文化、コミュニケーションの三分野に関する専門的な知識）および高い語学力を有している。

■思考力・判断力・表現力

国際社会において生じている諸問題（とくに、言語・文化などを背景とする、人間や人間が構成する組織の間の相互理解に関する問題）について、グローバルな視点に立ち、国際コミュニケーションの観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を有している。

■意欲・関心・態度

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる意欲・関心・態度を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html>）

（概要）

国際政治学科

国際政治学科は、学生が卒業時に以下の学力を身につけるために、教育課程を整備する。とくに、2年次より、「政治外交・安全保障コース」と「グローバル・ガバナンスコース」の2つの履修コースを設け、それぞれのコースに適したモデル履修計画に従って一貫した教育プログラムを提供する。

「政治外交・安全保障コース」

国際社会において活躍するために必要となる国際政治分野の専門的な知識を身につけるために、理論分野（国際関係理論、政治理論、国際法など）、歴史・思想分野（外交史、政治思想など）、地域研究分野に関する科目を設け、学科専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））として配置する。

国際社会において生じている諸問題（とくに、国家間の問題、地域の問題など）について、国家または地域の視点に立ち、国際政治学の観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を身につけるために、コース専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））および専門演習を配置する。

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる能力（高い語学力を含む）を身につけるために、外国語科目（A群（英語）、B群（英語以外の外国語）、C群（英語以外の外国語または英語））を体系的に配置するとともに、4年間を通じて少人数参加型の演習（1年次に入門セミナー、2年次にプリゼミ、3・4年次に専門演習）を開講する。

「グローバル・ガバナンスコース」

国際社会において活躍するために必要となる国際政治分野の専門的な知識を身につけるために、理論分野（国際関係理論、政治理論、国際法など）、歴史・思想分野（外交史、政治思想など）、地域研究分野に関する科目を設け、学科専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））として配置する。

国際社会において生じている諸問題（とくに、地球規模問題、グローバル・イシューなど）について、グローバルな視野に立ち、国際政治学の観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を身につけるために、コース専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））および専門演習を配置する。

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる能力（高い語学力を含む）を身につけるために、外国語科目（A群（英語）、B群（英語以外の外国語）、C群（英語以外の外国語または英語））を体系的に配置するとともに、4年間を通じて少人数参加型の演習（1年次に入門セミナー、2年次にプリゼミ、3・4年次に専門演習）を開講する。

国際経済学科

国際経済学科は、学生が卒業時に以下の学力を身につけるために、教育課程を整備する。とくに、2年次より、「国際経済政策コース」と「国際ビジネスコース」の2つの履修コー

スを設け、それぞれのコースに適したモデル履修計画に従って一貫した教育プログラムを提供する。

「国際経済政策コース」

国際社会において活躍するために必要となる国際経済分野の専門的な知識を身につけるために、理論分野（経済理論、国際経済学、開発経済学など）、分析方法（統計分析、計量経済学など）に関する科目を設け、学科専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））として配置する。

国際社会において生じている諸問題（とくに、国際的な経済相互依存関係など）について、国または産業レベルの視点に立ち、国際経済学の観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を身につけるために、コース専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））および専門演習を配置する。

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる能力（高い語学力を含む）を身につけるために、外国語科目（A群（英語）、B群（英語以外の外国語）、C群（英語以外の外国語または英語））を体系的に配置するとともに、4年間を通じて少人数参加型の演習（1年次に入門セミナー、2年次にプリゼミ、3・4年次に専門演習）を開講する。

「国際ビジネスコース」

国際社会において活躍するために必要となる国際政治分野の専門的な知識を身につけるために、理論分野（経済理論、ビジネス理論、ファイナンス理論など）、分析方法（統計分析、計量経済学など）、地域研究分野に関する科目を設け、学科専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））として配置する。

国際社会において生じている諸問題（とくに、国際的な経済相互依存関係など）について、企業レベルの視点に立ち、国際経済学の観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を身につけるために、コース専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））および専門演習を配置している。

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる能力（高い語学力を含む）を身につけるために、外国語科目（A群（英語）、B群（英語以外の外国語）、C群（英語以外の外国語または英語））を体系的に配置するとともに、4年間を通じて少人数参加型の演習（1年次に入門セミナー、2年次にプリゼミ、3・4年次に専門演習）を開講する。

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科は、学生が卒業時に以下の学力を身につけるために、教育課程を整備する。2年次より、「国際コミュニケーションコース」を設け、言語、文化、コミュニケーションそれぞれに焦点を当てたモデル履修計画に従って一貫した教育プログラムを提供する。

「国際コミュニケーションコース」

国際社会において活躍するために必要となる国際コミュニケーションの専門的な知識を身につけるために、言語、文化、コミュニケーションの三分野の専門的な知識に関する科目を設け、学科専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））として配置する。

国際社会において生じている諸問題（とくに、言語・文化などを背景とする、人間や人間が構成する組織の間の相互理解に関する問題）について、グローバルな視点に立ち、国際コミュニケーションの観点から正しく理解し、論理的に考察し、的確に分析し、さらにその解決に向けて実行する能力を身につけるために、コース専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））および専門演習を配置する。

国際社会の一員として世界の人々と協力し協働できる能力（高い語学力を含む）を身につけるために、外国語科目（A群（英語）、B群（英語以外の外国語）、C群（英語以外の外国語または英語））を体系的に配置するとともに、4年間を通じて少人数参加型の演習（1年次に入門セミナー、2年次にプリゼミ、3・4年次に専門演習）を開講する。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>国際政治学科</p> <p>■知識・技能</p> <p>国際社会の動向およびあり方について国際政治学の観点から理解し考察し分析するために必要とされる高校卒業レベルの知識および語学力を有している。</p> <p>■思考力・判断力・表現力</p> <p>高校卒業レベルの知識および語学力に基づいて、自らの力で主体的に思考し、判断し、表現できる。</p> <p>■意欲・関心・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会のあり方について特に国際政治の観点から関心を有している。 ・学びを通じて他者と積極的に協力・協働し行動する意欲を有している。 <p>国際経済学科</p> <p>■知識・技能</p> <p>国際社会の動向およびあり方について国際経済学の観点から理解し考察し分析するために必要とされる高校卒業レベルの知識および語学力を有している。</p> <p>■思考力・判断力・表現力</p> <p>高校卒業レベルの知識および語学力に基づいて、自らの力で主体的に思考し、判断し、表現できる。</p> <p>■意欲・関心・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会のあり方について特に国際経済の観点から関心を有している。 ・学びを通じて他者と積極的に協力・協働し行動する意欲を有している。 <p>国際コミュニケーション学科</p> <p>■知識・技能</p> <p>国際社会の動向およびあり方について国際コミュニケーション学の観点から理解し考察し分析するために必要とされる高校卒業レベルの知識および語学力を有している。</p> <p>■思考力・判断力・表現力</p> <p>高校卒業レベルの知識および語学力に基づいて、自らの力で主体的に思考し、判断し、表現できる。</p> <p>■意欲・関心・態度</p> <p>国際社会のあり方について特に国際コミュニケーションの観点から関心を有している。 学びを通じて他者と積極的に協力・協働し行動する意欲を有している。</p>

<p>学部等名 総合文化政策学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html）</p>
<p>総合文化政策学部は、キリスト教信仰に基づく大学としての建学の精神に則り、国際社会における様々な場面において、寛容の精神を持ち、文化の交流と相互理解に貢献できる世界市民、多様な文化を理解するとともに、文化や芸術の創造に寄与し、豊かな人間の生を育むさまざまな文化芸術環境をデザインすることのできる人材、人間の知的かつ精神的な営為を深く探求し、文化の批判と創造、あるいは洗練についての学的体系を構築することのできる人材を育成することを目的とする。</p> <p>このため総合文化政策学部の教育課程に、人類の文化的営為を総合的に捉える科目群、人間観、社会観、世界観を相対化し、批判的に理解するための科目群、文化や芸術を社会共通の財産とするための政策能力を獲得することを目的とした科目群を置くとともに、卒業後の活動領域を想定したコース・プログラム、教員研究及び各種連携組織との共同プロジェクトの一部を学生に開放した参加型教育プログラムを併設することにより、その教育目</p>

的を全うするものとする。
総合文化政策学部は、上記教育と並び、文化・社会及び芸術の創造と批判に関わる総合的な研究を行い、人類と社会の発展に貢献することを目的とする。この目的のため文化、芸術の諸領域についての創造的な学術研究を深化させるとともに、文化・社会の形成と発展に貢献するための政策科学の開発を行い、その成果を世界に発信することにより、人類共同の未来に奉仕することをその使命とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：
<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html>）

（概要）
■知識・技能
文化の創造と文化社会の形成、国際的な文化交流の促進のために必要な人文科学および社会科学、専門分野の理解に益する自然科学の基礎知識を習得している。
多様な文化を通じて活躍することのできる創造的世界市民としての外国語、とりわけ英語能力、さらにメディアを通じた情報発信のための情報処理能力を身につけている。
■思考力・判断力・表現力
文化に関わる広範な領域のリーダー、専門人として活躍しうするために不可欠な、実践の場における柔軟な文化創造力を身につけている。
■意欲・関心・態度
キリスト教理念に基づき、真理を謙虚に追及し、創造的世界市民としての人類の未来と国際社会に貢献する意欲を有している。
公共心の涵養により、偏見なく他者と交流し、共感することができるための態度を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html>）

（概要）
学術教育と実践教育を連携させた体系的な教育課程を編成する。これにより、人類の未来と国際社会に貢献する意欲を育むとともに、学問に裏打ちされ、フィールドに基礎をもった文化創造力を涵養する。
政策・マネジメント、文化・思想の2つの科目群による専門共通科目と、メディア文化、都市・国際文化、アートデザインの専門分野科目を4年間にわたって並行履修しうることによって、文化についての総合的な学識、領域別の具体的知識、活動のための実践的政策的知識を獲得するとともに、メディアを通じた情報処理能力を鍛えつつ、異文化理解、国際交流に必要な語学力を修得する。特に語学については、1年次に集中的に英語話者による少人数英語教育を行い、早期留学を支援するとともに国際的情報発信力を身につけることとし、2年次には、英語科目、3年次には本格的な英語講義科目を置き、異文化交流および情報発信のための文化知識の英語による修得を目指す。
以上の講義科目と並行し、2年次からは専任教員による少人数の学術演習を置き、専門知識の深化を目指すとともに、外部組織との連携などによるフィールドワークを通じた実践的知識の修得を目指すラボ・アトリエ実習を置き、学術教育と実践教育の連携を図る。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html>）

（概要）
■知識・技能
文化、芸術、政策科学、マネジメントに係る、広範な専門知識を修得するための高等学校卒業相当の基礎学力を有している。
■思考力・判断力・表現力
物事を多面的に、論理的に考察し、文化を創造し、その成果を的確に表現できる潜在能力を有している。

<p>■意欲・関心・態度 総合文化政策学科における学びで修得したものを活かして、文化の創造と発展に寄与する意欲がある。</p>

学部等名 理工学部

<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html）</p>
--

<p>理工学部は以下の方針に従い、各学科の自由闊達な取り組みのもと、教育及び研究の充実を図ることを目的とする。</p> <p>01. キリスト教主義大学の特徴である人格教育に特に留意し、社会に対して深い使命感を持つ人間の形成につとめる。</p> <p>02. 豊かな教養、広い視野、公正な判断力を持った科学者、技術者を育成するため、総合された偏りのない教育の実現を目指す。</p> <p>03. 今後の学問、技術、経済の国際交流と発展を考慮し、青山学院の伝統である外国語教育を重視する。</p> <p>04. 専門教育においては、科学・技術の急速な進歩を考慮して、最先端を視野にいれながら、普遍的な教養を身につけさせることを重視する。</p> <p>05. 最先端の研究を実施することによって、人類福祉に貢献する、問題発見・解決能力の高い人材を育成する。</p> <p>06. これらの実現のために、教育並びに研究においては、学科相互の協力、大学を取り巻く社会との協力を緊密にして幅広い活動を可能とする。</p>
--

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html）</p>

(概要)

物理科学科

■知識・技能

専門能力として、基礎および応用の物理学に基づき、種々の対象を分析し、問題点を理解し解決できる能力を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち多様な問題に対しその解決に向けたアプローチ方法の基礎を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づく対象の観察と問題把握、分析と解析の訓練に基づく洞察力と判断力、およびこれらを客観的かつ論理的に再構築し、あるいは本質的な点を抽出しモデル化することによって、対象の問題点とその解決案を他者に伝える能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

現実世界で遭遇する未知の問題を理解する探究心を身につけている。
難しい問題にも関心を持ち、真摯な態度で問題に向かい合い、解決するために創造力を発揮できる技術者・研究者となる意欲を持っている。

数理サイエンス学科

■知識・技能

専門能力として、種々の対象を数理的モデルに基づいて分析し、問題点を理解し論理的に解決できる能力を身につけている。基礎的素養として、英語、情報技術を身につけている。すなわち、多様な問題に対しその解決に向けたアプローチの方法の基礎を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づく対象の観察と問題把握、分析と解析の訓練に基づく洞察力と判断力、およびこれらを客観的かつ論理的に再構築し、あるいは本質的な点を抽出しモデル化することによって、考察対象の問題点とその解決案を他者に伝える能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

現実世界で遭遇する未知の問題を理解する探究心を身につけている。難しい問題にも関心を持ち、真摯な態度で問題に向き合い、解決するために創造力を発揮できる研究者、教員、技術者となる意欲を持っている。

化学・生命科学科

■知識・技能

化学及び生命科学分野の基礎知識と、「物理化学」、「無機・分析化学」、「有機化学」、「生命科学」の専門知識を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づく専門知識の実践に関する能力、および研究に関する基礎的な学習および実践能力とプレゼンテーション能力、論文執筆能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

化学及び生命科学分野の基礎知識と専門知識を理解する探究心を身につけている。難しい問題にも関心を持ち、それを解決するための実践的な能力を発揮できる技術者・研究者となる意欲を持っている。

電気電子工学科

■知識・技能

専門能力として、「材料～デバイス」、「電磁波～情報・通信」、「電子回路～電子応用」、「パワーエレクトロニクス」の領域から1つ以上の系統だった知識を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち、電気電子工学に携わる技術者の基礎を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づく精密な論理展開の理解、実践的活用の鍛錬に基づく洞察力と判断力、およびこれらを他者に伝えるためのプレゼンテーション能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

数理思考や基礎知識の理解だけではなく、直接見ることができない電気電子現象を理解する探究心を身につけている。難しい問題にも関心を持ち、研究者・技術者として必要な社会性や倫理観を身につけ、チームメンバー同士の連携を深め、何事にも協調性を持ちながら積極的に取り組むことができる技術者となる意欲を持っている。

機械創造工学科

■知識・技能

専門能力として、力学（材料、熱、流体および機械の動きに関する知識）に基づく現象の分析力と、機械構造物を設計・製作できる統合力を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち、責任を持って説明できる技術者（アカウントブル・エンジニア）の基礎を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づくリスクの察知、観察能力の鍛錬に基づく洞察力と判断力、およびこれらをモデル化し、他者に伝える能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

実験技術、シミュレーション技術等を用いた、実物のリアルな世界で現象を理解する探究心を身につけている。難しい問題にも関心を持ち、責任を持って説明できる技術者（アカウントブル・エンジニア）、解決するために創造力を発揮できる技術者となる意欲を持っている。

経営システム工学科

■知識・技能

専門能力として、モデル化技術、分析技術、最適化技術を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち、論理的思考力、専門知識・専門技術を活用した、課題解決の実践能力の基礎を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づく論理的思考能力に基づく洞察力と判断力、およびこれらを数理的な手法を使って体系的にモデル化し、コミュニケーションできる能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

社会や組織の仕組みを理解する探究心を身につけている。

難しい問題にも関心を持ち、企業や社会をより良く機能させるための管理技術と、システムの開発から実際の導入までを考察して実践できる論理的思考能力と判断力を発揮できる技術者となる意欲を持っている。

情報テクノロジー学科

■知識・技能

基礎知識として、英語、数学、情報技術の素養を身につけている。

専門知識として、情報数学・確率統計・システム設計・ソフトウェア設計などの情報技術の基礎知識を持ち、それを実問題に応用することができる。

実践能力として、システム開発、ソフトウェアプログラミングなどの問題解決能力を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

基礎知識に基づき、システムやネットワークの動作や挙動を推定し、妥当性や異常を判断することができる。

異常現象や想定外の動作に対して、洞察力と判断力を駆使して原理や原因を分析することができる。

問題を解決するための新技術の着想と提案ができ、それを実現する実行力を身につけている。

問題解決を可視化し、情報共有と集合知へ高めるコミュニケーション能力を身につけている。

■意欲・関心・態度

情報技術とその応用先の他分野技術を積極的に吸収し、実現象を理解する探究心を身につけている。

難しい問題にも関心を持ち、解決するために創造力を発揮し、課題解決を実践できる技術者となる意欲を持っている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html>）

（概要）

物理科学科

基礎だけにとどまらず、種々の分野への応用にも目を配った物理科学の教育を通して、創造的かつ人、社会および自然環境に対して責任を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

力学、電磁気学、量子力学、統計力学、相対性理論等の基礎物理学から、固体物理学、宇宙物理学、生物物理学など対象が絞られた分野、さらには、超伝導、ナノテクノロジー、量子エレクトロニクス等の最先端応用分野まで、さまざまな階層・スケールサイズにおよぶ物理学を学ぶ。

以下に、年次進行を示す。

1年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析および物理科学の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報技術の習得を重視する。また、物理学の基礎である力学、解析学、線形代数の講義と演習は必修科目として配置する。

2 年次の授業では、物理学の分野で最も重要な電磁気学、量子力学等を必修科目として配置する。これらの科目は演習と組み合わせられ授業を行う。これによって、集中的に基礎的な学力を習得させる。また、「物理計測基礎実験」を実施する。

3 年次では、やや専門的な講義科目を配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標「多様な分野への応用」が達成できるように配置する。同時に、「物理専門実験」を必修科目として配する。

4 年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行う。卒業研究では、原則として結果の知られていない新たな問題にあたる。実際の実験装置作り、新たな発想による実験のデザインと実行、新規データの解析、新たな着眼点からの数値シミュレーション等を行う。

数理サイエンス学科

基礎を重視しつつ、自然科学や情報科学の種々の分野への応用にも目を配った数理サイエンスの教育を通して、創造的かつ人、社会および自然環境に対して責任を担いうる研究者、教員、技術者を育成する教育プログラムを構築する。

1 年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析および数理サイエンス学習の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報技術の習得を重視する。また、数理科学に関わる学問分野に共通の基礎である解析学、線形代数および基本的な論理に関する講義と演習を必修科目として配置する。

2 年次の授業では、1 年次の学習を受けて、数理科学において重要な代数学、幾何学、集合論、確率統計等を選択必修科目の形で配置する。これらの科目は演習と組み合わせられて授業を行い、基礎的な学力を習得し定着させる。また、コンピュータ、数値解析に関わる学習も開始する。

3 年次では、応用数学の一部を含んだやや専門的な講義科目を配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、本学科の教育目標の一つである「多様な分野への応用」が達成できるようにいくつかの専門科目を配置する。同時に、論理的思考力やコミュニケーション能力を伸ばすために、「数理専門演習」を必修科目として配する。

4 年次では、カリキュラムの集大成として、いずれかの研究室に配属され、卒業研究を行う。そして、純粋数学の従来型の問題のみならず、基礎的な数学に立脚した身近な問題へのアプローチ、非線形数学や生物数学などへの応用、新しいアルゴリズムに基づく数値解析やファイナンス数学などから研究テーマを選んで、教員の指導のもとで専門書の講読、演習、研究を行い、卒業論文へつなげる。

化学・生命科学科

化学及び生命科学教育を通して、人と社会と自然に対して責任を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

1 年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、化学及び生命科学の基礎としての物理学・数学に加えて、化学及び生命科学自体の基礎、さらに基礎的な実験・実習技術の習得を重視する。

2 年次と 3 年次では、主に、化学及び生命科学分野の重要な 4 系列、すなわち、「物理化学」、「無機・分析化学」、「有機化学」、「生命科学」の専門コア授業科目を選択必修科目として配置する。これらの 4 系列の科目に関連した専門実験も必修科目として配置する。これによって、集中的に専門知識とその実践能力を習得させる。

4 年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究及び輪講を行う。

化学及び生命科学を、「物理化学」、「無機・分析化学」、「有機化学」、「生命科学」の 4 つの分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

これに並行して、化学・生命科学輪講 I (輪講科目) や、無機化学実験、物質分析化学実験、

物理化学実験、有機化学実験、生命科学実験Ⅰ、生命科学実験Ⅱ、情報処理実習などの専門実験・実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、研究に関する基礎的な学習および実践能力とプレゼンテーション能力、論文執筆能力を習得できるように十分な指導を行い、「化学及び生命科学分野の発展及び変化する社会のニーズに対応できる技術者・研究者の育成」を目指す。

電気電子工学科

基礎から応用に関する講義群と実践的な演習と実験を通して、社会のインフラとなっている電気電子工学を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

1年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析および数理思考の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報技術の習得を重視する。

2年次の授業では、電気電子工学として最も重要な電気回路、電気磁気、電気物性、電気電子計測を必修科目として配置する。これらの科目は適宜演習を行う。これによって、電気電子工学分野に共通する基礎的な学力を習得させる。

3年次では、電気電子工学実験を配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標「現代生活になくてはならない電気・電子工学に対して責任を担いうる技術者の育成」が達成できるように配置する。

4年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行う。

電気電子工学を次の4つの分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

分野1： 材料～デバイス

分野2： 電磁波～情報・通信

分野3： 電子回路～電子応用

分野4： パワーエレクトロニクス

上記に平行して、電気電子工学基礎実験、電気電子工学実験、電気機械設計及び製図など、演習、実験、実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、電気電子工学および周辺分野における具体的な課題を研究テーマとして、研究背景の理解、文献調査、研究計画の立案、研究に係る実験を遂行する。そして、3年次までに学んだ電気電子工学の専門知識の工学的意義を理解し、実践的活用を通じて、問題解決手法を身につけることを目指す。

機械創造工学科

ものづくり教育を通して、創造的かつ人と社会と自然に対して責任を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

1年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析およびモデル構築の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報技術の習得を重視する。

2年次の授業では、機械工学として最も重要な4力学、すなわち、材料力学、機械力学、熱力学、流体力学を必修科目として配置する。これらの科目を演習と組み合わせることで、集中的に基礎的な学力を習得させる。

3年次では、機械創造工学実験および機械設計製図を配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標「もの創りのできるアカウンタブル・エンジニアの育成」が達成できるように配置する。

4年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行う。

機械工学を次の3つの分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意

志と責任において履修計画を立てる。

分野1：材料を対象とし、材料の変形・強度・破壊など、材料の性質・挙動などについて学ぶ。

分野2：熱や流体を対象とし、熱や流れの力学、熱エネルギーの利用や熱移動、輸送システムなどについて学ぶ。

分野3：動力学・計測・制御・生産を対象とし、機械の動きとその計測・制御といったシステムに関する基礎、設計手法・生産システムなどについて学ぶ。

上記に平行して、ラボワーク、機械創造工学演習、機械創造工学実験、機械設計製図など、演習、実験、実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、実験的な研究を重視する。解析的な研究の場合にも、単なる数値シミュレーションの研究とならないように、工学的な意義、実験結果との比較、実社会への応用などについて十分な指導を行い、「もの創りのできるアカウンタブル・エンジニアの育成」を目指す。

経営システム工学科

実験・演習科目、講義科目、インターンシップを通して、豊かな国際性と倫理観を有し国際社会を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

1年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析およびモデル構築の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報技術の習得を重視する。

2年次の授業では、経営システム工学として最も重要なモデル化技術、分析技術最適技術分野の科目を必修科目として配置することで、包括的に基礎的な学力を習得させる。

3年次では、経営システム工学の実験科目を配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標「経営システム工学の専門知識・技術を身につけ、それらを高度に発展させられるエンジニア」が達成できるように配置する。

4年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行う。

経営システム工学を分析技術、モデル化技術、最適化技術の分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

モデル化技術分野：現実社会の客観的な理解力を養う。

分析技術分野：データに基づく思考力を養うための技術を学ぶ。

最適化技術分野：目標達成のための効果的な判断力を養う。

上記に平行して、モデル化技術実験、分析技術実験、最適化技術実験など、演習、実験、実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、経営システム工学の観点から現実社会の課題と問題を認識させながら、十分な指導を行い、「経営システム工学の専門知識・技術を身につけ、それらを高度に発展させ、論理的思考能力と判断力を発揮できる技術者」を目指す。

情報テクノロジー学科

システム構築や、設計・開発演習による教育を通して、人の置かれた情報環境を継続的に改善する能力と責任を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

1年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析およびプログラミングおよびシステム構築の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報基礎知識の習得を重視する。

2年次の授業では、情報基礎として最も重要な計算機概論、ロボット工学、数理モデル解析法、ソフトウェア設計を必修科目として配置する。これらの科目はプログラミングおよびシステム演習と組み合わせられ、講義と演習が対応するように行う。これによって、集中的に基礎的な学力を習得させる。

3 年次では、情報テクノロジー実験および総合プログラミング実習を重点的に配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標である「情報テクノロジーを活用して社会貢献のできるエンジニアの育成」が達成できるように配置する。

4 年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行う。

情報テクノロジーを次の 4 つの分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

分野 1 : デジタルメディア / CG・Web : 実世界をデジタルデータで表現する方法やシミュレーション技術、Web を中心としたコンピュータソフトウェアの設計手法について学ぶ。

分野 2 : 高度機械学習 / AI : 数理的素養をベースにして、人工知能、知識処理、自然言語処理、コンピュータビジョンについて学ぶ。

分野 3 : 人間情報学 / XR : 人を中心に据えて、人の生体・行動情報を取得する技術や、人に対するコンテンツ提示方法・行動変容方法について学ぶ。

分野 4 : ロボティクス / IoT : ロボット、自動運転車に代表される先進的な知能システムの制御・ナビゲーション技術および創造的なシステムの利用技術、実世界から得られるデータの連携技術について学ぶ。

これらの 4 つの分野に対応した講義科目を 2 ～ 3 年次に配置し、それと平行して、情報テクノロジー体験演習、総合プログラミング実習、情報テクノロジー実験、デジタルメディア設計演習など、演習、実験、実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、理論と実践のバランスの取れた研究を勧め、発生事象やユーザのフィードバックを重視する。プログラミング、システム構築、Web システム開発などの実践的研究手法を修得し、大学院で高度な研究を進められる力を涵養する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html>）

（概要）

物理科学科

■知識・技能

専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、理科などについて内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有し、とくに、数学、物理学の基礎学力を有している。

■思考力・判断力・表現力

高等学校卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

■意欲・関心・態度

学科の特徴を理解した上で、数学および自然科学関連分野にも興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

数理サイエンス学科

■知識・技能

専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、理科などについて内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有し、とくに、数学の基礎学力を有している。

■思考力・判断力・表現力

高等学校卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

■意欲・関心・態度

学科の特徴を理解した上で、数学および自然科学関連分野に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

化学・生命科学科

■知識・技能

専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、化学、物理学などについて内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

■思考力・判断力・表現力

高等学校卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

■意欲・関心・態度

学科の特徴を理解した上で、化学と生命科学およびその関連学問分野に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

電気電子工学科

■知識・技能

専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、理科などについて内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有し、数学及び物理学の基礎が理解できる。

■思考力・判断力・表現力

高等学校卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

■意欲・関心・態度

学科の特徴を理解した上で、電気電子工学及び関連分野に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

機械創造工学科

■知識・技能

専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、理科などについて内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有し、力学の基礎が理解できる。

■思考力・判断力・表現力

高等学校卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

■意欲・関心・態度

学科の特徴を理解した上で、ものづくりに興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

経営システム工学科

■知識・技能

専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、理科などについて内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有し、基本的な英語を使ってコミュニケーションできる能力がある。

■思考力・判断力・表現力

高等学校卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

■意欲・関心・態度

学科の特徴を理解した上で、経営システム工学の専門分野のみならず、幅広い学問領域に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

情報テクノロジー学科

■知識・技能

専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、理科などについて内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有し、情報技術の基礎が理解できる。

■思考力・判断力・表現力

高等学校卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

■意欲・関心・態度

学科の特徴を理解した上で、情報テクノロジーに興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

学部等名 社会情報学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html>）

社会情報学部は、人文科学、社会科学と情報科学を融合させ、従来の文系、理系の枠に捉われない多角的な視点から現代社会の問題点をえぐり、その問題解決を自らが図ることのできる高度な人材養成を目的とする。すなわち、従来の専門領域が対象とする人間・社会・情報の各分野に対して、それらが複雑に絡み合う分野を専門領域とし、これら三分野に共通する基盤教育と、①社会・情報、②社会・人間、③人間・情報という新しい3種類の専門領域における問題解決への新たな取り組みを目指すものである。

本学部では、これら3つの専門領域に対応させた社会・情報コース、社会・人間コース、人間・情報コースを設置することで、以下のような人材を育成する。

人と人、社会と人のコミュニケーションのあり方や組織の設計、組織における意思決定や知識の有効な活用法、経済活動そのものやそれがもたらす人間社会への問題の解明、経済活動と直結した人間心理の解明、企業や政策そのものやそこにおける人的要素の解明、そして知識基盤社会やそれが人間に及ぼす影響の解明ができる人材を養成する。

理論と実践に基づく情報技術を駆使して大量データの分析を行うことができ、論理的な取り組みや理論的背景を理解することによって、人や社会に内在する「なぜ？」に対して説明ができる人材の養成を行う。

ここで養成される能力は、現代の複雑な社会におけるあらゆる分野で「地の塩、世の光」となり活躍しようとする人々にとって必要不可欠なものである。

以上の目的を達成するために、社会情報学部においては、教育研究の両面で専門領域の深化を目指すだけでなく、他の専門領域をも意識した取り組みを実践していく。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html>）

（概要）

■知識・技能

現代社会を取り巻く「人間、社会、情報」に関わる広い知識を身につけている。

数理的素養、論理的思考、コミュニケーション能力および情報の活用について、その基礎となる知識・技能を身につけている。

■思考力・判断力・表現力

現代社会を取り巻く「人間、社会、情報」が複雑に絡み合った問題について、それらが単一の専門領域だけでなく複数の専門領域からアプローチする必要性を理解している。

現代社会を取り巻く「人間、社会、情報」が複雑に絡み合った問題について、その要素となる一つ以上の専門領域について、その基礎を身につけ、自ら論理的に思考し、判断することができる。

現代社会を取り巻く「人間、社会、情報」が複雑に絡み合った問題を捉え、その問題解決に向けた取り組みについて、一定の方針を立てることができる。

■意欲・関心・態度

「人間、社会、情報」に関わる広い知識をもって、社会問題に取り組むプロジェクトの一員になる意欲がある（チームワーク）。

「人間、社会、情報」に関わる広い知識をもって、持続的に学ぶ意欲がある（学び）。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html>)

(概要)

社会情報学科は、社会情報学部の人材育成目的、「人間の行動、経済活動を理解し、それらの疑問に解答できる人材、多様なデータを論理的に分析し、社会の疑問に解答できる人材を育成すること」、を達成するため、下記のような教育課程を編成する。

数理的素養、論理的思考、コミュニケーション能力および情報の高度な活用の4つの力をすべての学生必須のものと位置づけ、配置する。さらに、この素養を武器にして既存学問分野である心理・学習、経営・経済および情報・数理のいずれか、あるいは複数の領域に踏み込むことによって、これら既存の分野を俯瞰し、さらに新たな価値の創造を目指す。

また、これらを進めるにあたり、より実践的なテーマによる演習を重視し、問題発見・解決に向けたトレーニングを重視した取組を行う。また、青山スタンダードの教養教育に加えて「日本語におけるコミュニケーション」を重視し、日本語文章作成の訓練、プレゼンテーションの基礎を含む科目を設置する。さらに、英語コミュニケーション能力を鍛えるために徹底したトレーニングを行う科目も設定する。分析能力の基礎となる「統計入門」、社会・人間・情報を解明するための「基礎数学」、それらを有効に活用するための基本となる「情報科学」「コンピュータ」の基礎を学ぶ。

以上より、「人間、社会、情報」に関わる広い知識を持ち、社会問題に取り組むプロジェクトの一員になり、持続的に学ぶ意欲をもつ学生を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html>)

(概要)

■知識・技能

国語、外国語、地理歴史、公民、数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

■思考力・判断力・表現力

物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

■意欲・関心・態度

学科の特徴を理解した上で、「人間、社会、情報」などに興味関心を持ち、それを大学における勉学を通じて追求し、専門知識や専門スキルを活用して社会のために役立てる意欲がある。

学部等名 地球社会共生学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html>)

地球社会共生学部の教育研究目的は、キリスト教信仰に基づく教育を根底に置き、地球規模の広い視野を持つとともに将来社会の姿を見据え、調和のとれた持続的社会的発展に寄与し、時代を切り開いてゆく人材を育成することである。

具体的には、国や地域、人種、性別、文化の違いを超えて世界の人々と積極的に協力し、差別、貧困、争い、環境破壊などの地球課題の克服に挑戦し常に学び続け、高い倫理観と社会奉仕の精神を持ち、地球上のどの地域にあっても「地の塩、世の光」の精神を体現し、感謝される仕事ができる地球市民を育成することである。

この目的を実現するために、本学部は、語学力に裏打ちされたコミュニケーション能力の養成、主体性、積極性、協調性、リーダーシップ等のコンピテンシーの養成、そして自己アイデンティティを土台とした異文化共感力を養成する学部共通科目群を設定すると同時に、経済、政治、文化、社会の各領域にわたる幅広いディシプリンの学修と体験学習、さらには世界の学生との交流を有機的に組み合わせることで多角的視野を会得させ、共生マインドを培うためのプログラムを設置する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html>

(概要)

■知識・技能

社会科学の幅広い素養に基づく知識と、協働して地球社会の課題に取り組む行動力を有している。

■思考力・判断力・表現力

・日本および世界の現在と未来を広くかつ複眼的に捉える地球規模の視野と、多角的な視点を有している。

・海外大学で英語の専門科目を受講できる程度の語学力に裏打ちされた十分なコミュニケーション能力を有している。

■意欲・関心・態度

・地球社会の課題に挑戦し、持続的発展に寄与したいという高い志を有している。

・世界の人々と共に学び、共に働き、共に創るという共生マインドを有している。

・主体性、積極性、協調性、リーダーシップなどのコンピテンシーを有している。

・学院モットーの「地の塩、世の光」を体現し、地球上の人々に貢献したいと思う「こころ」を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html>）

(概要)

地球社会共生学部の教育課程は青山スタンダード科目と専門教育科目で構成される。

■カリキュラム体系

地球上のさまざまな課題に取り組むグローバル人材となるために、1-2年次の集中的語学教育および留学プログラムにより一定の語学力、コミュニケーション力、情報活用力等のスキルを身につける。同時に、社会科学、人文科学の幅広い素養を修得するため以下の4領域を幅広く学ぶ。

・世界のことを知る・知らせるメディア/空間情報

・世界を分析し理解するソシオロジー

・世界と協働し連携するコラボレーション

・世界の人々とつながり同じ価値を共創する経済・ビジネス

■特色

1. 各人の関心と将来活動する分野に応じて4領域の科目群から柔軟に科目を選択してみずからの学びを構築することができるカリキュラムが提供される。

2. 上記4領域の学びを通して身につける「知恵」と、2年後期の留学というカリキュラムを通して培われる行動力、実現力などの「力」を重視した教育がなされる。

3. 地球社会において貢献できる人材に必要な共生マインドや、主体性、積極性、協調性を培うものとして、留学プログラムを学部教育の重要な柱と位置づける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html>）

(概要)

■知識・技能

国語、数学、社会などの科目で培われた高等学校卒業相当の文献理解力を有している。

■思考力・判断力・表現力

・自己表現力、論理的思考力を有している。

・グローバルな諸課題について考え、判断して、自分の意見を表現できる力を有している。

■意欲・関心・態度

・グローバルな諸課題に対し、強い好奇心・関心を有している。

・その問題を解決する方法を学びたいという探究心を有している。

・知識を得ることだけでなく、体験すること、行動することに意欲を有している。

・グローバル人材に必要な英語資格を目指して持続的に学習する意欲を有している。

学部等名 コミュニティ人間科学部
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html）</p> <p>コミュニティ人間科学部の教育研究上の目的は、キリスト教信仰に基づく青山学院の精神を基礎にした幅広い教養を兼ね備えた、コミュニティ形成の中核として活躍する人間を育成することである。</p> <p>地域社会理解に関する方法・地域に住み活動する人間の行動についての理解に関する方法の修得を基礎にし、地域社会の諸問題解決に積極的に関わるための知識や他者との共生的感覚を養い、自律的な行動の基盤となる専門的知識や技術を持つ人間、専門的職業人としてあるいは地域社会の構成者として、スクール・モットー「地の塩、世の光」を常に意識した能動的な人間として社会に貢献する存在を目指した教育を行う。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html）</p> <p>（概要）</p> <p>■知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・若者、女性、高齢者、障がい者が自律的能動的に活動できるような環境を整えるための知識を有している。 ・教育学・社会学分野に基づく広い社会的な素養として、地域社会についての深い理解を身につけている。 ・地域に住む人間について体験的な実習に基づく共感的な理解力を身につけている。 <p>■思考力・判断力・表現力</p> <p>教育・福祉、職業・文化、心理、制度・行政等の諸側面から、専門的に現状を把握・分析し、問題状況を理解し、必要な解決策を検討し、行政や民間諸機関の具体的な行動計画を策定、遂行できる能力を有している。</p> <p>■意欲・関心・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な問題に関して、その解決のために積極的に行動する意欲を有している。 ・社会的な問題の具体的な解決策への探求心を有している。 ・教育学や社会学の理解に基づいて備わった共生に関する知見に基づき、地域で他者と協力して活動できる力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html）</p> <p>（概要）</p> <p>コミュニティ人間科学部は、学部の人材育成目的の達成のため、以下のような専門教育科目群と、外国語科目及び青山スタンダード科目で構成される教育課程を編成する。</p> <p>第0群：学部必修科目 第Ⅰ群：子ども・若者活動支援プログラム 第Ⅱ群：女性活動支援プログラム 第Ⅲ群：コミュニティ活動支援プログラム 第Ⅳ群：コミュニティ資源継承プログラム 第Ⅴ群：コミュニティ創生計画プログラム 第Ⅵ群：専門技能科目</p> <p>学部必修科目（第0群）には、コミュニティ人間科学部に入学したすべての学生が履修すべき科目を位置づけ、講義形式で開講される学部基礎科目、研究理解科目と、これらの科目を踏まえて実践的な内容を扱う演習科目により構成する。</p> <p>第Ⅰ群～第Ⅴ群では、地域の社会と人々にかかわる諸課題の理解を深め、かつ、それらに対して実践的な対応を図る能力を育成するため、5つのプログラムを設定する。学生はいずれかのプログラムを中心に、将来設計につながる学修を進める。第Ⅵ群には、社会教育主事資格・司書資格・学芸員資格・社会調査士資格に関連した科目を配置する。</p>

入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html ）
（概要） ■知識・技能 国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語などについての高等学校卒業相当の知識と、幅広い教養を有している。 ■思考力・判断力・表現力 地域社会の多様な状況を的確に把握できるよう、既成の発想にとらわれず、柔軟なものの見方や考え方ができる。 ■意欲・関心・態度 社会の諸課題に関心を持ち、他の学生と協調しながら学修に励む積極性を身につける意欲と、さまざまな地域活動に積極的に取り組もうとする意思を有している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
文	1人	59人	21人	0人	1人	6人	88人
教育人間科	0人	31人	9人	0人	2人	7人	49人
経済	0人	35人	8人	0人	2人	人	45人
法	0人	33人	11人	0人	2人	1人	47人
経営	0人	40人	6人	0人	0人	1人	47人
国際政治経済	1人	28人	12人	0人	1人	0人	42人
総合文化政策	0人	15人	6人	0人	2人	0人	23人
理工	0人	65人	14人	0人	51人	13人	143人
社会情報	1人	15人	8人	0人	3人	0人	27人
地球社会共生	0人	16人	4人	0人	5人	0人	25人
コミュニティ人間科学	0人	23人	14人	0人	0人	2人	39人
大学院	1人	28人	5人	0人	1人	2人	37人
附属研究所	0人	17人	0人	0人	13人	17人	47人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		1047人					1047人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://raweb.jm.aoyama.ac.jp/aguhp/KgApp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文	740人	787人	106.4%	2,960人	3,231人	109.2%	0人	0人
教育人間科	298人	314人	105.4%	1,192人	1,262人	105.9%	0人	0人
経済	539人	565人	104.8%	2,156人	2,334人	108.3%	0人	0人
法	500人	531人	106.2%	2,000人	2,173人	108.7%	0人	0人
経営	520人	546人	105.0%	2,080人	2,244人	107.9%	0人	0人
国際政治経済	304人	314人	103.3%	1,216人	1,337人	110.0%	0人	0人
総合文化政策	259人	281人	108.5%	1,036人	1,094人	105.6%	0人	0人
理工	680人	714人	105.0%	2,660人	2,845人	105.8%	0人	0人
社会情報	220人	228人	103.6%	880人	927人	105.3%	0人	0人

地球社会共生	190人	211人	111.1%	760人	812人	106.8%	0人	0人
コミュニティ人間科	240人	241人	100.4%	960人	983人	102.4%	0人	0人
合計	4,490人	4,732人	105.4%	17,930人	19,242人	107.3%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文	698人 (100%)	35人 (5.0%)	597人 (85.5%)	66人 (9.5%)
教育人間科	297人 (100%)	23人 (7.7%)	254人 (85.5%)	20人 (6.7%)
経済	536人 (100%)	14人 (2.6%)	472人 (88.1%)	50人 (9.3%)
法	475人 (100%)	20人 (4.2%)	420人 (88.4%)	35人 (7.4%)
経営	529人 (100%)	13人 (2.5%)	475人 (89.8%)	41人 (7.8%)
国際政治経済	268人 (100%)	14人 (5.2%)	224人 (83.6%)	30人 (11.2%)
総合文化政策	258人 (100%)	10人 (3.9%)	225人 (87.2%)	23人 (8.9%)
理工	587人 (100%)	271人 (46.2%)	300人 (51.1%)	16人 (2.7%)
社会情報	204人 (100%)	8人 (3.9%)	177人 (86.8%)	19人 (9.3%)
地球社会共生	182人 (100%)	7人 (3.8%)	155人 (85.2%)	20人 (11.0%)
コミュニティ人間科	243人 (100%)	4人 (1.6%)	233人 (95.9%)	6人 (2.5%)
合計	4,277人 (100%)	419人 (9.8%)	3,532人 (82.6%)	326人 (7.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>教員は「講義内容 WEB 入稿システム」を用いて講義内容を作成し、事務局において内容確認後、大学 HP を利用して学内外に公表している。</p> <p>スケジュール (2023 年度の場合)</p> <p>入稿期間：2022 年 11 月 18 日～2023 年 2 月 25 日</p> <p>内容確認：2023 年 3 月 2 日～3 月 23 日</p> <p>公表：2023 年 3 月 24 日</p> <p>入稿項目：講義概要、達成目標、履修条件、授業計画 (事前・事後学習含)、授業方法、成績評価方法、教科書、参考書、授業関連情報 (連絡先等)、メッセージ</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>講義内容の成績評価方法欄に成績評価の種別として以下の 4 分類に区分し、それぞれの割合 (合計で 100%)、評価基準等を明示している。</p> <p>成績評価の種別：試験／レポート／平常点／その他</p> <p>なお、授業出席自体を成績評価とみなすことは不相当であることを講義内容入稿マニュアルに記載している。</p> <p>成績評価については、全学部学生に対して「履修ガイド」を配布し、大学としての成績評価の方法 (グレード表記)、基準を明示し、厳格かつ適正に実施しています。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では各学部学科においてディプロマポリシーを公表し、本ポリシーに従い適切に実施しています。</p> <p>また、履修ガイドにおいては以下のように卒業について定義し、全学生に対して周知をしています。</p> <p>卒業：本学に 4 年 (8 期) 以上在学 (休学期間を除く) し、なおかつ 4 年次に 1 年 (2 期) 以上の在学が必要です。その上で、各学部で定められた卒業に必要な単位を修得した者に卒業が認められ、学士の学位が授与されます。</p> <p>卒業判定は、9 月卒業は 9 月の月上旬に開催される教授会、3 月卒業は 3 月上旬に開催される教授会において審議・決定され、その後学生ポータルを用いて通知しています。</p>																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業に必要な単位数</th> <th>GPA 制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">文学部</td> <td>英米文学科</td> <td>124 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>フランス文学科</td> <td>128 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>日本文学科</td> <td>126 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>史学科</td> <td>128 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>比較芸術学科</td> <td>128 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">教育人間科学部</td> <td>教育学科</td> <td>128 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>心理学科</td> <td>128 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	文学部	英米文学科	124 単位	有・無	単位	フランス文学科	128 単位	有・無	単位	日本文学科	126 単位	有・無	単位	史学科	128 単位	有・無	単位	比較芸術学科	128 単位	有・無	単位	教育人間科学部	教育学科	128 単位	有・無	単位	心理学科	128 単位	有・無	単位
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)																															
文学部	英米文学科	124 単位	有・無	単位																															
	フランス文学科	128 単位	有・無	単位																															
	日本文学科	126 単位	有・無	単位																															
	史学科	128 単位	有・無	単位																															
	比較芸術学科	128 単位	有・無	単位																															
教育人間科学部	教育学科	128 単位	有・無	単位																															
	心理学科	128 単位	有・無	単位																															

経済学部	経済学科	124 単位	有・無	単位
	現代経済デザイン学科	124 単位	有・無	単位
法学部	法学科	132 単位	有・無	単位
	ヒューマンライツ学科	132 単位	有・無	単位
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	単位
	マーケティング学科	124 単位	有・無	単位
国際政治経済学部	国際政治学科	132 単位	有・無	単位
	国際経済学科	132 単位	有・無	単位
	国際コミュニケーション学科	132 単位	有・無	単位
総合文化政策学部	総合文化政策学科	130 単位	有・無	単位
理工学部	物理科学科	138 単位	有・無	単位
	数理サイエンス学科	136 単位	有・無	単位
	化学・生命科学科	138 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	137 単位	有・無	単位
	機械創造工学科	136 単位	有・無	単位
	経営システム工学科	136 単位	有・無	単位
	情報テクノロジー学科	136 単位	有・無	単位
社会情報学部	社会情報学科	124 単位	有・無	単位
地球社会共生学部	地球社会共生学科	124 単位	有・無	単位
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文	英米文	833,000 円	200,000 円	322,000 円	その他欄計上費用 ・在籍基本料 ・施設設備料 ・教育活動料
	フランス文				
	日本文				
	史 比較芸術				

教育人間科	教育	833,000 円	200,000 円	327,000 円
	心理	833,000 円	200,000 円	342,000 円
経済	経済	833,000 円	200,000 円	327,000 円
	現代経済デザイン			
法	法	833,000 円	200,000 円	332,000 円
	ヒューマンライツ			
経営	経営	833,000 円	200,000 円	332,000 円
	マーケティング			
国際政治経済	国際政治	843,000 円	200,000 円	352,000 円
	国際経済			
	国際コミュニケーション			
総合文化政策	総合文化政策	833,000 円	200,000 円	342,000 円
理工	物理科	1,181,000 円	200,000 円	480,000 円
	数理サイエンス			
	化学・生命科			
	電気電子工			
	機械創造工			
	経営システム工			
	情報テクノロジー			
社会情報	社会情報	1,007,000 円	200,000 円	406,000 円
地球社会共生	地球社会共生	1,007,000 円	200,000 円	406,000 円
コミュニティ人間科	コミュニティ人間科	917,000 円	200,000 円	396,000 円

⑨ 大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

青山学院大学では、学生支援に関する方針のもと、次の通り修学支援に関する方針を定め、全学的に支援に取り組んでいます。

- 1) 学生が学修を円滑に進めていくことができるよう、相談、指導および補習教育の実施に取り組む。
- 2) 学生が自ら意欲的に修学を進めることができるよう、設備環境の整備に努める。
- 3) 留年者、休学者および退学者の状況把握と分析を行い、学生の声に耳を傾け、多様な学生がそれぞれに充実した学生生活を送ることができるよう、関係各所が連携して適切な対応を行う。
- 4) 正課教育と正課外活動が連動する仕組みを構築し、教育効果を高める。

<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>青山学院大学では、学生の多様な進路に対応し、卒業後までを見通した柔軟で的確なキャリア・サポートを目指しています。下記の3つの支援実践を柱に、1・2年生のうちから自らの将来を見据えたキャリア教育を含め、卒業後に自立した人間として仕事を通じて社会に貢献するために、学生が「納得のできる進路選択」ができることを目指して体系的に支援しています。</p> <p>進路・就職センター／進路・就職課の3つの支援</p> <p>1. 進路・就職行事の開催</p> <p>早い時期から自らの将来の進路を考え、職業観や勤労観を醸成するために、1・2年生への支援活動に力を入れています。3・4年生には、進路選択に役立つより具体的なプログラムを用意し、的確な職業選択と自分自身が納得できる進路決定する判断力の向上を目指しています。</p> <p>2. 進路・就職情報の提供</p> <p>本学オリジナルの進路就職支援システム Web Ash では、本学宛での求人票やインターンシップ情報、OB・OG 情報、学内で開催する各種行事の案内や、進路・就職に役立つ機関へのリンクなど、様々な情報を提供しています。また、資料室では、進路・就職関係の雑誌や書籍、業界新聞、U・I ターン就職情報などを閲覧することができます。</p> <p>3. 個別相談</p> <p>青山キャンパスでは職員 15 名、相談員 9 名が、相模原キャンパスでは職員 8 名、相談員 6 名（繁忙期）が、個別相談にあたっています。相談内容は多岐にわたり、就職に関すること、進学や留学等、それぞれの進路に応じたきめ細かい対応を心がけています。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>青山学院大学では、学生の心身の健康に係る支援として、青山・相模原の各キャンパスに保健管理センターと学生相談センター及び障がい学生支援センターを設置し全学的に取り組んでいます。</p> <p>1. 保健管理センター</p> <p>年度初頭に学生健康診断を実施し、病気の早期発見や予防、自己の健康管理に努めるとともに、教育実習や奨学金、就職活動などに必要な健康診断証明書の発行をしています。また、学内の救急対応施設として応急処置等を行う他、保健師・看護師、内科医や精神科医が個別に健康相談、医療相談、メンタルヘルス相談にあたり、必要に応じて外部医療機関への紹介を行っています。</p> <p>2. 生相談センター</p> <p>学生生活において学生個人が当面する各種の問題について臨床心理士が相談に応じ、精神保健その他における問題の解決のために助言等を行っています。担当外の問題については、担当部署（教務課、進路・就職センター、障がい学生支援センター、保健管理センター等）の紹介を行っています。必要に応じて外部相談機関と連携することもあります。</p> <p>3. 障がい学生支援センター</p> <p>障がいや病気ケガが理由で支援が必要な学生の窓口として 2018 年度に設置された「障がい学生支援センター」では、支援の必要な学生が、障がいのない学生と同等の教育・研究の機会を得ることができるように、入学前から在学期間中、就職・社会参加への移行まで、大学内外の関係各部署や組織・機関と連携して総合的な支援を行っています。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.aoyama.ac.jp/outline/information/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	青山学院大学
設置者名	学校法人 青山学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		899人	865人	953人
内 訳	第Ⅰ区分	533人	532人	
	第Ⅱ区分	235人	213人	
	第Ⅲ区分	131人	120人	
家計急変による支援対象者（年間）				32人
合計（年間）				985人
(備考) 上記人数には、給付奨学金のみ受給の学生2名及び授業料減免のみ受給の14名を含む。				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	—	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	15人	人	人
計	22人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	—	人	人
GPA等が下位4分の1	92人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	92人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310102920
学校名	青山学院大学
設置者名	学校法人 青山学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		899人	865人	953人
内訳	第Ⅰ区分	533人	532人	
	第Ⅱ区分	235人	213人	
	第Ⅲ区分	131人	120人	
家計急変による支援対象者（年間）				32人
合計（年間）				985人
(備考) 上記人数には、給付奨学金のみ受給の学生2名及び授業料減免のみ受給の14名を含む。				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	15人		
計	22人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	92人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	92人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。